opentext™

UFT One

ソフトウェアバージョン：23.4-24.2

インストール・ガイド

ヘルプセンターにアクセス
https://admhelp.microfocus.com/uft/

ドキュメントリリース日: 2024年05月

フィードバックの送信

インストール・ガイドを使用してお気づきになった点をお知らせください。
電子メールの宛先: admdocteam@opentext.com

ご注意

© Copyright 2024 Open Text.

Open Textおよびその関連会社およびライセンサ (「Open Text」) の製品およびサービスの保証は、当該製品およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、Open Textはいかなる責任も負いません。ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

免責事項
ここからアクセス可能なソフトウェアの一部には、Hewlett-Packard Company (現在の HP Inc.) および Hewlett Packard Enterprise Company のブランド が含まれる場合があります。このソフトウェアは、2017年9月1日にMicro Focusによって買収され、現在は別に所有および運営されている会社であるOpenTextによって提供されています。HPおよびHewlett Packard Enterprise/HPEマークの使用は歴史的なものであり、HPおよびHewlett Packard Enterprise/HPEマークはそれぞれの所有者に帰属します。

目次

インストール 6
- 概要 6
- インストール・ガイドのコンテンツ 6

UFT Oneプログラムの使用 8
- デモ・アプリケーション 8
- アクセシビリティ 9
- Unicodeへの準拠 9

エンタープライズ・デプロイメント 10
- UFTとユーザ・アカウント制御(UAC) 10
- Stingray Add-inまたはTerminal Emulator Add-in 11

インストール・パッケージ 13
- UFT Oneのフル・インストール・パッケージ 13
- UFT Oneのコンパクトなインストール・パッケージ 14
- UFT One関連の追加インストール 15

インストールの前に 19
- インストールの前提条件 19
- 必要なアクセス許可 22
  - UFT Oneに必要なアクセス許可 23
  - ALMに必要なアクセス許可 24
  - BPTに必要なアクセス許可 24

インストール・ウィザードを使用したUFT Oneのインストール 26
- UFT Oneインストール・パッケージのダウンロード 26
- インストール・ウィザードの実行 27
- UFT One改善プログラム 27
- UFT Oneインタフェースの言語の変更 28
- ［カスタムセットアップ］画面 28
- UFT One設定画面 31

UFT Oneのサイレント・インストール 34
- サイレント・インストールを実行する前に 34
- UFT Oneの前提条件をインストールするためのサイレント・コマンド 35
- UFT Oneのサイレント・インストール 38
- UFT Oneのサイレント・インストール：UFT Oneの特定の機能を含める 39
- UFT Oneのサイレント・インストール：UFT One設定オプションの設定 45

UFT One のサイレント・インストール：コマンドの追加プロパティ 46
UFT One のサイレント・インストール：ローカライズされたバージョンの UFT One のインストール 47
Web 2.0 アドインのインストール 48
スタンドアロン UFT One Add-in for ALM のインストール 48

Package for the Web Bundle からの UFT One のインストール 50
概要 50
UFT One Package for the Web Bundle のダウンロード 51
インストール・ウィザードを使用した UFT One のインストール 51
コマンド・ライン・インタフェースを使用した UFT One のインストール 52

UFT One のアップグレード 56
アップグレードする前に 56
アップグレードの実行 57
UFT One 設定ファイルの場所 57
アップグレードの注意事項 58

インストールの検証 63
UFT One インストール・チェック・ツールの分析を実行する 63
UFT One インストール・チェック・ツールのレポートについて 64

Web 2.0 アドインまたは Extensibility ツールキットのインストール 65

インストール時の既知の問題 67
使用中のファイル 67
コンポーネントの登録に失敗しました 68
UFT One インストールの変更または修復 68
UFT One インストールと他の ADM ソフトウェア 68
UFT One インストールと Microsoft ソフトウェア 70
UFT One インストールと OpenText UFT Agent(ブラウザのサポート) 73
UFT One インストールと 64 ビット・アプリケーション 74
UFT One インストールと Java 74
英語以外の言語での UFT インストール 75

UFT One ライセンス 77
UFT One のライセンスの種類 77
ライセンス情報の表示 78
AutoPass License Server 78
シート・ライセンスとコンカレント・ライセンス 79
シート・ライセンス 80
コンカレント・ライセンス 80

ライセンス・エディション 82
サポートされるライセンス・エディション 82
UFT 14.00 より前からのライセンスのアップグレード 83
ライセンスのフォールバック機能 84
ウィザードを使用したライセンスの管理 86
コマンド・ラインを使用したライセンスの管理 93
コマンド・ラインからのライセンス・インストーラの実行 93
コマンド・ラインを使用したシート・ライセンスの定義 94
コマンド・ラインを使用したコンカレント・ライセンスの消費 95
ライセンス動作の設定 97
一般的なライセンス設定 97
ライセンスのフォールバック機能の設定 98
ライセンス・タイムアウトの設定 99
ライセンスに関するよくある質問 101
UFT One ヘルプセンターのライセンス・スコープ 102
古いライセンス（UFT One 12.50 より前のもの）を新しいライセンス・サーバで使用できますか。 102
どのライセンスをインストールすればよいのですか。 102
AutoPass License Server をインストールするにはどうすればよいですか。 103
コンカレント・ライセンスを使用する場合，ライセンス・サーバに接続するには，どうすればよいでしょうか。 103
エンタープライズ・ネットワークに UFT One をデプロイする場合，どのような方法でライセンスをインストールすればよいでしょうか。 104
ライセンス・サーバでコンカレント・ライセンスを管理する方法を教えてください。 104
ライセンスの動作を自分で設定することはできますか。 104
プロキシ経由で AutoPass License Server を使用できますか。 105
クリーンアップ・ライセンスとは何ですか。 105
体験版ライセンスの有効期限が短いのですが，どうすればよいでしょうか。 105
UFT One ライセンスに関する既知の問題 106

ALM に接続する前に 108
Microsoft Windows 10 および 11，Windows Server 2016 および 2019 108
Microsoft Windows Server 2012 109
UAC を再度有効にする（必要な場合） 109

インストール

このインストール・ガイドでは，UFT Oneのインストールとアップグレードに関する情報と，サポートされているライセンスの種類の管理と使用に関する情報を提供します。

概要

OpenText™ UFT Oneは，機能テストと回帰テストの自動化機能に，APIテスト機能を組み合わせた統合機能テスト製品ソリューションです。

このガイドは，UFT Oneバージョン23.4および24.2を対象としています。バージョンごとの違いは，必要に応じて記載されています。

UFT Oneのソフトウェア・アップデート，パッチ，サービス・パックの確認には，ソフトウェア・サポート・サイトをご利用ください。

> **注:** このガイドの情報は，UFT Oneオンライン・ヘルプセンターでも入手できます。

インストール・ガイドのコンテンツ

次の表に，このインストール・ガイドのさまざまな種類の情報の場所を示します。

インストール・タスク	詳細
概要情報	「UFT Oneプログラムの使用」(8ページ) 「エンタープライズ・デプロイメント」(10ページ)
インストール・パッケージ	「インストール・パッケージ」(13ページ)

インストール・タスク	詳細
インストールの前に	「インストールの前に」(19ページ) 「インストールの前提条件」(19ページ) 「必要なアクセス許可」(22ページ)
インストールのステップ	「インストール・ウィザードを使用した UFT One のインストール」(26ページ) 「UFT One のサイレント・インストール」(34ページ) 「Package for the Web Bundle からの UFT One のインストール」(50ページ) 「インストールの検証」(63ページ) 「Web 2.0 アドインまたは Extensibility ツールキットのインストール」(65ページ)
アップグレード	「UFT One のアップグレード」(56ページ)
トラブルシューティング	「インストール時の既知の問題」(67ページ)
ライセンス	「UFT One ライセンス」(77ページ)
ALM の統合	「ALM に接続する前に」(108ページ)

UFT One プログラムの使用

このトピックでは，UFT One の使用に関するバックグラウンド情報を提供します。

このセクションの内容：

- デモ・アプリケーション 8
- アクセシビリティ 9
- Unicode への準拠 9

デモ・アプリケーション

このガイドでは，サンプルの Web サイトとして Advantage Online Shopping を使用します。このサイトの URL は次のとおりです。
https://www.advantageonlineshopping.com/#/

> **注:** このサイトを使用するには，ユーザ名とパスワードを登録する必要があります。これらの資格情報は永続的ではありません。サンプル Web サイトの Advantage Online Shopping で新しいセッションを開始する場合は，資格情報を再定義する必要があります。

サンプルの Windows ベースのフライト・アプリケーションも，UFT One に付属しています。

Flight API および **Flight GUI** アプリケーションは，さまざまな方法で起動できます。

- Windows の［スタート］メニュー
- **<UFT One インストール・フォルダ>/samples/Flights Application/FlightsGUI.exe**(Flight GUI application)
- **<UFT One インストール・フォルダ>/samples/Flights Application/FlightsAPI.exe**(Flight API application)
- Windows OS：**C:\Program Files (x86)\OpenText\UFT One**

アクセシビリティ

操作の多くは，マウスを使って行います。

UFT Oneは，W3Cのアクセシビリティ標準に従う米国リハビリテーション法第508条に準拠しており，Windowsユーザー補助オプション・ユーティリティの「**マウスキー**」オプションを使用して実行される操作も認識します。

また，多くの操作をショートカット・キーを使用して実行できます。

Unicodeへの準拠

UFT Oneは Unicode 標準の要件に従って Unicodeに準拠しているため，さまざまな言語を使用するアプリケーションのテストが可能です。

UFT Oneコンピュータに，関連する Windows 言語サポートがインストールされているかぎり，英語以外のアプリケーションをテストします。

テストやリソース（関数ライブラリ，オブジェクト・リポジトリ，回復シナリオなど）の名前およびパスは Unicodeに対応していません。したがって，英語またはオペレーティング・システムの言語のいずれかで設定する必要があります。

エンタープライズ・デプロイメント

ネットワークや企業内の多数のコンピュータにまたがるエンタープライズ・ビジネス・モデルに UFT One をインストールする場合は，各コンピュータの管理者権限が必要になります。

UFT One はサイレント・インストールもサポートしています。詳細については，「UFT One のサイレント・インストール」(34ページ)を参照してください。

このセクションの内容：

- UFT とユーザ・アカウント制御(UAC) 10
- Stingray Add-in または Terminal Emulator Add-in 11

UFT とユーザ・アカウント制御(UAC)

コンピュータのユーザ・アカウント制御(UAC)をオフにする必要はありません。

ただし，UAC を無効にせずに初めて UFT One から ALM に接続するには，各マシンに ALM クライアントの MSI ファイルのインストールも必要になります。

ALM Client MSI Generator を使用して，すべてのユーザ用のカスタム MSI を生成します。このツールでは，クライアント側の MSI をインストールする前に ALM サーバの設定を行えます。

カスタム MSI の設定は，各 MSI Generator のバージョンに付属のユーザ・ガイドの説明に従って行います。

> **注：** 設定を行うときは，［**Check Include Component Registration**］および［**Use Shared Deployment Mode**］オプションを選択します。

Stingray Add-in または Terminal Emulator Add-in

ユーザが Stingray Add-in または Terminal Emulator Add-in のいずれかを使用する場合は，UFT One のインストール後に管理者またはユーザによる追加設定が必要です。

Stingray Add-in と Terminal Emulator Add-in の両方

各コンピュータで基本インストールの後に，「追加インストール要件」（［スタート］メニューで利用可能）を実行します。

［追加インストール要件］で，［**Stingray ウィザードの実行**］と［**ターミナルエミュレータ ウィザードの実行**］のいずれかまたは両方のオプションを選択し，設定ウィザードの手順に従って，アドインをセットアップします。

Stingray Add-in

UFT One のインストール後に，ユーザは次の手順で UFT One 内から Stingray Support Configuration Wizard を実行する必要があります：［**ツール**］＞［**オプション**］＞［**GUI テスト**］タブ＞［**Stingray**］表示枠＞［**バージョン**］

この設定に管理者権限は必要ありません。

Terminal Emulator Add-in

UFT One のインストール後に，ユーザは次の手順で UFT One 内からターミナル・エミュレータの設定ウィザードを実行する必要があります：［**ツール**］＞［**オプション**］＞［**GUI テスト**］タブ＞［**ターミナル エミュレータ**］表示枠＞［**ウィザードを開く**］

このウィザードを実行するには，管理者権限が必要です。

次のように，ウィザードを一度だけ実行し，その設定をレジストリ・ファイルに保存して，レジストリ・ファイルをすべてのコンピュータにデプロイすることもできます。

1. ターミナル・エミュレータ・ウィザードの最終画面で，［**ターミナルエミュレータの設定をファイルに保存する**］オプションを選択します。

   > **注:** 設定に割り当てられているベンダ名とエミュレータ名，および **.reg** ファイルの正確な名前と場所を記録しておいてください。

2. ファイルを，自分のコンピュータの **<UFT One のインストール・フォルダ>\dat** フォルダにコピーします。
3. レジストリ・ファイルをダブルクリックして，レジストリ・エディタ・メッセージ・ボックスを開きます。
4. ［**はい**］をクリックし，情報をレジストリに追加します。情報がレジストリにコピーされたことを示すメッセージが表示されます。
5. ［**OK**］をクリックします。この設定に割り当てられているエミュレータ名が，UFT One の利用可能なターミナル・エミュレータのリストに追加されます。

インストール・パッケージ

このセクションでは，UFT One で利用可能な UFT One インストール・パッケージについて詳しく説明します。

インストール・パッケージには，無償試用版のページから，または「ソフトウェアのライセンスとダウンロード」ページでアカウントを選択してアクセスできます。

このセクションの内容：

- UFT One のフル・インストール・パッケージ 13
- UFT One のコンパクトなインストール・パッケージ 14
- UFT One 関連の追加インストール 15

UFT One のフル・インストール・パッケージ

Full UFT One DVD Release には，次の内容が含まれています。

- UFT One のセットアップ・プログラム

  UFT One のインストール時に，含める機能とアドインを指定できます。これにより，製品の機能とインストール・サイズの両方を制御できます。

  含まれる機能の一覧については，「［カスタムセットアップ］画面」(28ページ)を参照してください。

- UFT One の前提条件
- 「UFT One 関連の追加インストール」(15ページ)

UFT One のコンパクトなインストール・パッケージ

UFT One には，コンパクトなインストール・パッケージが用意されています。

パッケージ	内容
Package for the Web Bundle	この圧縮された軽量インストール・パッケージでは，UFT One のセットアップ・プログラムのみが提供されます。このパッケージには，Full UFT One DVD Release と同じ機能とアドインが含まれています。 UFT One のインストール前提条件も含まれていますが，自動的にはインストールされません。これにより，すでにすべての前提条件がインストールされている場合に，より高速にインストールすることができます。 **除外内容**：「UFT One 関連の追加インストール」(15 ページ)

パッケージ	内容
Core UFT One DVD Bundle	テキスト認識とリモート AI オブジェクト検出サービスに ABBYY を使用しない場合，このパッケージにより，インストールが若干速く，軽量になります。 **除外内容**： • ABBYY OCR エンジン・ファイル。 UFT One インストールに ABBYY OCR エンジン機能を含める場合は，これらのファイルが必要です。ファイルは Full UFT One DVD Release と Package for the Web Bundle に含まれています。 • リモート AI オブジェクト検出サービス・パッケージ。 このパッケージは，Full UFT One DVD Release にのみ含まれる個別のインストール・プログラムです。 **注**： • AI テーブル・コンテナ内の AITableCell オブジェクトを認識するには，ABBYY テキスト認識が必要です。 • 後で ABBYY OCR エンジンをインストールに追加するには，**UFT OCR Expansion Pack** をダウンロードします。
UFT OCR Expansion Pack	**Core UFT One DVD Bundle** の ABBYY OCR エンジン・サポートを提供します。 **内容**：ABBYY OCR エンジン・ファイルのみ **注**：使用する Core UFT One DVD Bundle バージョンに一致するバージョンをダウンロードしてください。

UFT One 関連の追加インストール

Full UFT One DVD Release および Core UFT One DVD Bundle パッケージには，UFT One セットアップ・プログラムに加えて，UFT One 関連の他のスタンドアロン・インストール用の追加のセットアップ・プログラムが含まれています。

追加のインストール・プログラムの 1 つを実行するには，次の手順を実行します。

1. ダウンロードしたパッケージを解凍します。
2. **Setup.exe** ファイルを実行します。
3. UFT One インストール・ウィザードの［**起動**］画面で，インストールするプログラムを選択します。

UFT One 関連の追加インストールには，次のものがあります。

インストール	説明
UFT One Add-in for ALM	UFT One から ALM と通信して，ALM のテストやコンポーネントを実行できます。 スタンドアロン・バージョンは，UFT One がコンピュータにインストールされていない場合にのみインストールします。 これを UFT One と一緒にインストールするには，UFT One のインストール時にこれをインストールすることを選択します。最初にこれを UFT One と一緒にインストールせず，後からインストールする場合は，インストール・ウィザードを再度実行します。［**変更**］を選択してから，［カスタム セットアップ］画面で［**ALM Plugin**］を選択します。
Extensibility SDK	Java，.NET，WPF，Silverlight，または Web の，UFT One で標準でサポートされていないオブジェクトのサポートを開発できます。
Web 2.0 ツールキットのサポート	Web 2.0 テクノロジの次のオブジェクトをテストで認識して使用することができるようにします。 • ASP .NET Ajax • Dojo • GWT(Google Web Toolkit) • jQueryUI • Salesforce Lightning • SiebelOpenUI • EXT-JS • YahooUI Web 2.0 ツールキットは，UFT One に GUI アドインとして表示されます。

インストール	説明
ライセンス・サーバのセットアップ	UFT One のコンカレント・ライセンスとコミュータ・ライセンスをインストールおよび管理するのに使用する，AutoPass ライセンス・サーバをインストールできるようにします。 詳細については，「UFT One ライセンス」(77ページ)および AutoPass License Server のオンライン・ドキュメントを参照してください。
Run Results Viewer セットアップ	スタンドアロン・バージョンの Run Results Viewer をインストールできるようにします。 スタンドアロン・バージョンは，UFT One がコンピュータにインストールされていない場合にのみインストールします。
UFT Developer セットアップ	開発用 IDE でテストを直接コーディングできるようにする機能テスト・ツールである UFT Developer をインストールできるようにします。 • スタンドアロン・バージョンは，UFT One がコンピュータにインストールされていない場合にのみインストールします。 • これを UFT One と一緒にインストールするには，UFT One のインストール時にこれをインストールすることを選択します。最初にこれを UFT One と一緒にインストールせず，後からインストールする場合は，インストール・ウィザードを再度実行します。［**変更**］を選択してから，［カスタムセットアップ］画面で［**UFT Developer**］を選択します。 • UFT Developer をインストールする前に，サポートされているバージョンの **Node.js** をインストールする必要があります。UFT Developer でサポートされている **Node.js** バージョンの一覧については，サポート・マトリクスを参照してください。 詳細については，*UFT Developer ヘルプセンター*を参照してください。

インストール	説明
リモート AI オブジェクト検出サービスのセットアップ	中央の処理能力の高い 1 台のコンピュータにリモート AI オブジェクト検出サービスをインストールできます。このサービスが，すべての UFT One コンピュータに AI オブジェクト検出サービスを提供できます。
(Full UFT One DVD Release のみに含まれます)	インストールの前に，UFT One ヘルプセンターに記載されている，このサービスのすべての前提条件を満たしていることを確認してください。

注: 別途記載のないかぎり，「**Application Lifecycle Management**」または「**ALM**」とは現在サポートされている ALM または Quality Center のすべてのバージョンを指します。

一部の機能およびオプションは，使用している ALM または Quality Center のエディションではサポートされていない可能性があります。

その他の参照項目：

- 「インストールの前に」(19ページ)
- 「UFT One ライセンス」(77ページ)
- 「ALM に接続する前に」(108ページ)

インストールの前に

UFT Oneをインストールする前に，次の手順を実行してください。

> **注意:** UFT Oneは，ユーザ・アクションやネットワーク通信の記録に使用される可能性がある製品です。このため，UFT Oneの実行は，機密性の高い情報が保存されておらず，またそうした情報へのアクセス手段もない専用のテスト・マシンで行うことを強くお勧めします。また，UFT Oneの使用前に，ラボ・ネットワーク・トポロジとアクセス許可を十分に確認する必要があります。

手順	詳細
エンタープライズ環境へのUFT Oneのインストールに関する情報を確認する(該当する場合)	「エンタープライズ・デプロイメント」(10ページ)
インストールの前提条件を満たしていることを確認する	「インストールの前提条件」(19ページ)
UFT Oneを使用するために必要なアクセス許可があることを確認する	「必要なアクセス許可」(22ページ)
UFT Oneのアップグレードに関する情報を確認する(該当する場合)	「UFT Oneのアップグレード」(56ページ)
既知の問題を確認する	「インストール時の既知の問題」(67ページ)
	「UFT Oneライセンスに関する既知の問題」(106ページ)
UFT Oneをセキュアな方法で使用するための手順を確認する	『UFT Oneセキュリティ・リファレンス』

インストールの前提条件

このセクションでは，UFT Oneをインストールするために必要な前提条件について説明します。インストールを行う前に，次の前提条件を確認します。

前提条件	説明
インストール場所	UFT Oneをインストールする場所を選択します。 (ネットワーク・ドライブにはUFT Oneをインストールしないでください)。 インストール・パスおよびインストール・ファイルのパスには,英字のみ使用できます。
コンピュータの状態	コンピュータが再起動の必要がない状態になっていることを確認します。
システム要件	コンピュータが「サポート・マトリクス」に記載されているハードウェアとソフトウェアの最小要件をすべて満たしていることを確認します。 「サポート・マトリクス」で説明されているように,一部の前提条件はUFT Oneのインストール・パッケージに含まれています。これらの前提条件は,UFT Oneのインストール・プロセスの一環としてインストールできます。 AI Codeless Testingがコンピュータにインストール**されていない**ことを確認します。
ライセンス	使用するライセンスの種類を確認しておいてください。 コンカレント・ライセンスを使用する場合は,ライセンス・サーバURLを用意してください。 詳細については,「UFT Oneライセンス」(77ページ)を参照してください。
権限	UFT Oneをインストールするには,管理者権限が必要です。
GUIテスト アドイン	GUIテストに対して使用するアドインを確認しておいてください。使用するアドインのみをインストールすることをお勧めします。

前提条件	説明
API テスト - SOAP アクティビティ	SOAP メッセージのチェックポイントの検証や作成など，API テストで SOAP アクティビティを実行する予定がある場合は，UFT One インストールの bin フォルダに WS-I テスト・ツールをインストールする必要があります。これらのテスト・ツールをインストールするには，次の手順を実行します。 1. Web Services Interoperability Organization（WS-I）の公式 Web サイトから，**Interoperability Testing Tools 1.1** の **C#** パッケージをダウンロードします。 2. ダウンロードしたファイルの内容を展開します。 3. 展開した **wsi-test-tools\cs\bin** フォルダの内容をすべて，**<UFT One インストール>\bin** フォルダにコピーします。

前提条件	説明
API テスト - Web サービス	WSE セキュリティ設定を使用して Web サービスのテストを実行する場合，.NET Framework 3.5，WSE 2.0 SP3 パッケージ，および WSE 3.0 パッケージがコンピュータにインストールされている必要があります。 .NET 3.5 Framework および WSE パッケージは，UFT One のインストールではインストールされません。これらがコンピュータにインストールされていない場合は，次の手順に従ってインストールできます。 1. .NET 3.5 Framework をインストールしてアクティブにします。MSDN：https://msdn.microsoft.com/en-us/library/hh506443(v=vs.110).aspx で手順を参照してください。 2. マーケットプレイス：**https://marketplace.microfocus.com/appdelivery/content/uft-one-installation-prerequisites**から WSE 2.0 SP3 および WSE 3.0 パッケージをダウンロードし，インストールします。 **注**：Windows 10 以降では，WSE は Microsoft による公式サポートの対象外となりました。 サイレント・インストール・コマンドを使用したこれらの前提条件のインストールの詳細については，「UFT One の前提条件をインストールするためのサイレント・コマンド」(35ページ) を参照してください。 **注:** Web サービスを安全にテストするために WCF を使用する場合，これらの前提条件は必要ありません。WCF タイプの Web サービスのセキュリティをカスタマイズする処理の詳細については，UFT One ヘルプセンターを参照してください。

必要なアクセス許可

UFT One の実行，または UFT One と ALM または BPT の使用を始める前に，次のアクセス許可を確認してください。

このセクションの内容：

- UFT One に必要なアクセス許可 23

- ALM に必要なアクセス許可 24
- BPT に必要なアクセス許可 24

UFT One に必要なアクセス許可

ファイル・システムに対して必要なアクセス許可

読み取り /書き込み アクセス許可	次のファイルとフォルダ，およびすべてのサブフォルダへの**読み取り /書き込み**アクセス許可が必要です。 • **Temp** フォルダ • **ユーザ・プロファイル・** フォルダ • UFT One ソリューション，テスト，または実行結果が含まれるフォルダ • **%programdata%\OpenText** フォルダ • **%localappdata%\OpenText** フォルダ • **%appdata%\OpenText** フォルダ **UFT One 23.4**： **%programdata%\Micro Focus** フォルダ **%localappdata%\Micro Focus** フォルダ **%appdata%\Micro Focus** フォルダ
読み取り /実行 アクセス許可	UFT One インストール・フォルダ
読み取り アクセス許可	次のフォルダへの**読み取り**アクセス許可が必要です。 • **Windows** フォルダ • **System** フォルダ • **Windows\System32** フォルダ • **<Windows>\mercury.ini** ファイル

レジストリ・キーに対して必要なアクセス許可

読み取り/書き込み アクセス許可	次の場所にあるすべてのキー： • **HKEY_CURRENT_USER\Software\Mercury Interactive** または **[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Hewlett-Packard]** • **HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Hewlett-Packard**
読み取りおよび 値照会の アクセス許可	• **HKEY_LOCAL_MACHINE** キー • **HKEY_CLASSES_ROOT** キー

> **注:** 後方互換性を考慮して，一部のフォルダ・パスには以前の会社のブランドが意図的に使用されています。

ALM に必要なアクセス許可

読み取り/書き込みアクセス許可	• ALM キャッシュ・フォルダ • **<Program Data>\Micro Focus** フォルダ • UFT One Add-in for ALM のインストール・フォルダ
管理者権限	ALM への初回の接続用

BPT に必要なアクセス許可

ビジネス・コンポーネントおよびアプリケーション領域を操作する前に，ALM で必要なアクセス許可を持っていることを確認する必要があります。

コンポーネント・ステップ

ALM のコンポーネント・ステップで作業するには，適切な［**ステップの追加**］，［**ステップの変更**］，［**ステップの削除**］許可のいずれかが設定されて

いなければなりません。

コンポーネント・ステップで作業するのに［**コンポーネントの変更**］許可は必要ありません。

［**コンポーネントの変更**］権限により，コンポーネント・プロパティ（コンポーネントの［詳細］タブのフィールド）を操作できます。

ALMまたはその他のテスト・ツールのパラメータ

ALMまたはテスト・ツールのパラメータを使用するには，ALMにすべてのパラメータ・タスク権限が設定されている必要があります。

アプリケーション領域

アプリケーション領域を変更するには，リソースに対してコンポーネントの変更，ステップの追加，変更，削除を実施するのに必要な個別のアクセス許可が必要です。

4つの権限すべて（［**コンポーネントの変更**］，［**ステップの追加**］，［**ステップの変更**］，または［**ステップの削除**］）が必要です。

これらのアクセス許可のいずれかが割り当てられていない場合は，アプリケーション領域を読み取り専用形式でしか開くことができません。

次のステップ：

- 「インストール・ウィザードを使用したUFT Oneのインストール」(26ページ)
- 「UFT Oneのサイレント・インストール」(34ページ)
- 「Package for the Web BundleからのUFT Oneのインストール」(50ページ)

インストール・ウィザードを使用した UFT One のインストール

このセクションでは，インストール・プロセスをガイドする UFT One インストール・ウィザードを実行する方法について説明します。このプロセスを実行する前に，必ず「インストール・パッケージ」(13ページ)を確認し，「インストールの前に」(19ページ)の手順を確認してください。

英語以外の言語を使用しているコンピュータに UFT One をインストールする場合，インストールのセットアップとウィザードは，自動的にコンピュータの言語で実行されます。

このセクションの内容：

- UFT One インストール・パッケージのダウンロード 26
- インストール・ウィザードの実行 27
- UFT One 改善プログラム 27
- UFT One インタフェースの言語の変更 28
- ［カスタム セットアップ］画面 28
- UFT One 設定画面 31

UFT One インストール・パッケージのダウンロード

無償試用版のページから，または「ソフトウェアのライセンスとダウンロード」ページでアカウントを選択して，インストール・パッケージにアクセスします。

Full UFT One DVD Release または Core UFT One DVD Bundle をダウンロードします。

ダウンロードした **.zip** ファイルからファイルを展開して，インストールを実行する **Setup.exe** ファイルを見つけます。

> **注意:** インストール・ファイルは，パスが 80 文字以内の**空の**フォルダに展開されるようにしてください。

> Windows では，ファイルのパスの長さが 260 文字に制限されています。個々のインストール・ファイルのファイル・パスがこれより長い場合，インストールは失敗します。そのような場合は，展開したインストール・ファイルをパスが短い場所に移動してください。

インストール・ウィザードの実行

インストールを行う前に，コンピュータを再起動してシステム構成を完全にしておく必要があります。

次に，**Setup.exe** ファイルを実行し，インストールの開始画面で［**UFT One セットアップ**］を選択します。指示された手順に従って，インストール作業を行います。

インストール・ウィザードの手順の詳細については，以下を参照してください。

UFT One のインストールが完了すると，**Readme** とインストール・ログの表示を確認するプロンプトが表示されます。

また，コンピュータの再起動を確認するプロンプトが表示される場合もあります。このプロンプトが表示されたら，できるだけ早く再起動することをお勧めします。システムの再起動を先延ばしにすると，UFT One に予期しない動作が発生する可能性があります。

> **注:** Web 2.0 アドインまたは Extensibility ツールキットを使用する場合は，追加インストールを実行します。詳細については，「Web 2.0 アドインまたは Extensibility ツールキットのインストール」(65ページ)を参照してください。

UFT One 改善プログラム

［End-User License Agreement］表示枠で，［**UFT One 改善プログラムに参加する**］を選択できます。

このオプションを選択すると，使用状況データを収集して OpenText に送信するように UFT One が設定されます。このデータは，どの改善がユーザにとって最も重要かを把握するのに使用されます。

ウィザードで［**詳細の表示**］をクリックすると，プログラムの詳細が表示されます。

> **注:** このデータ収集は，後から UFT One 内で無効にしたり再度有効にしたりすることができます。詳細については，UFT One ヘルプセンターの「［使用状況データコレクタ］表示枠」を参照してください。

UFT One インタフェースの言語の変更

標準設定では UFT One は，英語でインストールされます。

オペレーティング・システムの言語で UFT One をインストールする場合は，［使用許諾契約書］画面の下部にある言語オプションを選択します。

［カスタム セットアップ］画面

［カスタム セットアップ］画面で，インストールする UFT One の機能を選択します。

機能ごとに，次のインストール・オプションのいずれかを選択します。

	ローカル・ハード・ドライブにインストールします。 選択した機能をローカル・ハード・ディスク・ドライブにインストールします。サブ機能はインストールされません。
	機能全体をローカル・ハード・ドライブにインストールします。 選択した機能のすべてとそのサブ機能をローカル・ハード・ディスク・ドライブにインストールします。 たとえば，.NET Add-in をサブアドイン（Windows Presentation Foundation など）込みでインストールするように UFT One を設定できます。

> **注:** ✖ **機能全体をインストールしません。**を選択すると，インストールからその機能が除外されます。この機能は UFT One では使用できなくなります。
>
> これらの機能を後でインストールするには，［**変更**］オプションを使用してインストールを再実行し，機能を選択します。

次の表に，各機能の一覧を示します。

機能	説明
ランタイム・エンジン	必須。UFT One または UFT Developer テストを実行できるようにします。
UI デザイナおよび IDE	UFT One テストを編集できるようにします。
Run Results Viewer	UFT One または UFT Developer 実行結果を表示できるようにします。 Run Results Viewer を使用せずに，ブラウザ・ウィンドウに実行結果を表示することもできます。
サンプル	UFT One チュートリアルで使用するデモ・アプリケーション。
ALM Plugin	ALM から UFT One テストを直接実行し，編集できるようにします。
UFT Developer	開発用 IDE から機能テストを直接作成できるようにします。

機能	説明
AI オブジェクト検出 **(UFT One 23.4：AI 機能)**	UFT One で AI ベースのテストを使用できるようにします。 **前提条件：** 次のものがインストールされていることを確認してください。 • 64 ビット・オペレーティング・システム。 • Microsoft Visual C++ 2022 再頒布可能パッケージ • 必要な Windows 機能。ご使用の Windows オペレーティング・システムによって異なります。 **Windows OS - Microsoft Media Feature Pack** a. ［コントロールパネル］から，［**プログラムと機能**］＞［**Windows の機能の有効化または無効化**］を選択します。 b. ［Windows の機能］ウィンドウで，［**メディア機能**］を有効にします。 c. コンピュータを再起動して変更内容を有効にします。 **Windows Server 2012 以降 - Microsoft Media Foundation** 1. ［コントロールパネル］から，［**プログラムと機能**］＞［**Windows の機能の有効化または無効化**］を選択します。 2. ［役割と機能の追加ウィザード］ウィンドウで，［機能］タブが表示されるまで［**次へ**］をクリックします。 3. ［**Media Foundation**］を有効にします。 4. ［**インストール**］をクリックします。 5. 変更内容を有効にするには，コンピュータを再起動します。 Windows 機能を有効にするための最新の手順については，Microsoft のドキュメントを参照してください。

機能	説明
ABBYY OCR エンジン	UFT One で ABBYY OCR テキスト認識を使用できるようにします。 **注：** • ABBYY OCR エンジン・ファイルは，Full UFT One DVD Release と Package for the Web Bundle に含まれています。 • すでに ABBYY OCR エンジンなしで UFT One をインストールしている場合，今すぐインストールに含めるには，管理者としてインストール・プログラムを実行する必要があります。 • Core UFT One DVD Bundle には，ABBYY OCR エンジン・ファイルは含まれていません。このインストール・パッケージをダウンロードしており，ABBYY OCR エンジン機能をインストールする場合は，次の手順を実行します。 a. スタンドアロンの UFT OCR Expansion Pack をダウンロードします。使用する Core UFT One DVD Bundle バージョンに一致するバージョンをダウンロードしてください。 インストール・ファイルには，無償試用版のページから，または「ソフトウェアのライセンスとダウンロード」ページでアカウントを選択してアクセスできます。 b. 管理者として，UFT One インストール・プログラムを実行し，［カスタムセットアップ］画面で［ABBYY OCR エンジン］機能を選択します。 c. その次の画面で，UFT OCR Expansion Pack の **.zip** ファイルの場所を指定します。
GUI テストのアドイン	サポート対象のテクノロジ・バージョンを使用してアプリケーションをテストできます。 Web 2.0 アプリケーションをテストする場合は，Web Add-in もインストールしてください。

UFT One 設定画面

UFT One のインストールに合わせて自動的に設定する必要がある項目をすべて選択します。

設定オプションには，次のものがあります。

Chrome, Chromium Edge, Firefox のオプションを設定します	UFT One が Chrome，Edge，Firefox に OpenText UFT Agent 拡張機能を自動的にインストールできるようにします。 このオプションは，ブラウザ・ポリシーを更新し，ブラウザの許可リストまたはインストール・リストに拡張機能を追加して，UFT One のインストール中に拡張機能をインストールできるようにします。 **注意:** 社内のセキュリティ・ポリシーでこの変更が許可されていることを確認してください。 このオプションの選択を解除すると，以前のインストールで実行されたブラウザ・ポリシーの更新がすべて削除されます。 このオプションの選択を解除した場合は，後で［**変更**］オプションを指定してインストールを再実行し，そのときにこのオプションを選択できます。また，許可される拡張機能のリストに拡張機能を手動で追加することもできます。これを手動で行う処理の詳細については，UFT One ヘルプセンターの Web ブラウザの既知の問題に関するトピックを参照してください。
Internet Explorer の構成設定	テスト実行時に UFT One で Microsoft Script Debugger アプリケーションを使用できるようになります。 別の方法として，UFT を実行する前にこれらの設定を手動で行うこともできます。［**インターネット オプション**］＞［**詳細設定**］で，次のオプションを選択します。 • **スクリプトのデバッグを使用しない** • **サードパーティ製のブラウザ拡張を有効にする**
ALM からの UFT One のリモート実行を許可する	DCOM のアクセス許可とセキュリティ設定が自動的に変更され，UFT One コンピュータのファイアウォールの特定のポートが開放されます。 ALM からリモートで UFT One テストを実行する場合は必須です。 これらのオプションを後から手動で設定する場合は，https://support.microfocus.com/kb/kmdoc.php?id=KM02239325 を参照してください。

オートメーション・スクリプトからの UFT One のリモート実行を許可する	DCOM のアクセス許可とセキュリティ設定が自動的に変更され，オートメーション・スクリプトを使用して，UFT One を別のコンピュータからリモートで制御できるようになります。 これらのオプションを後から手動で設定する場合は，https://support.microfocus.com/kb/kmdoc.php?id=KM02239325 を参照してください。

注意: オートメーション・スクリプトから UFT One をリモートで実行すると，リモート・ユーザがこのマシン上の UFT One を制御できるようになるため，UFT One コンピュータがセキュリティ・リスクに曝されます。

UFT One のサイレント・インストール

UFT One と ALM Add-in は，ローカル・コンピュータまたはリモート・コンピュータにサイレント・インストールできます。

UFT One の Package for the Web Bundle をサイレント・インストールするには，「Package for the Web Bundle からの UFT One のインストール」(50ページ)を参照してください。

このセクションの内容：

- サイレント・インストールを実行する前に 34
- UFT One の前提条件をインストールするためのサイレント・コマンド 35
- UFT One のサイレント・インストール 38
- UFT One のサイレント・インストール：UFT One の特定の機能を含める 39
- UFT One のサイレント・インストール：UFT One 設定オプションの設定 45
- UFT One のサイレント・インストール：コマンドの追加プロパティ 46
- UFT One のサイレント・インストール：ローカライズされたバージョンの UFT One のインストール 47
- Web 2.0 アドインのインストール 48
- スタンドアロン UFT One Add-in for ALM のインストール 48

サイレント・インストールを実行する前に

サイレント・インストールを行う前に：

- 「インストール・パッケージ」(13ページ)と，「インストールの前に」(19ページ)の情報を**確認**します。
- 管理者権限があることを**確認**します。
- 開いているファイルを**保存**し，開いているすべてのアプリケーションを終了します。
- システムを**再起動**して，システム構成を完全にしておきます。
- サイレント・インストール・コマンドは**大文字と小文字を区別する**ため，記載されているとおりに正確に入力する必要があります。

インストール・ファイルの場所：

以下のサイレント・インストール・コマンドはすべて，**<UFT One インストール・ファイル>**フォルダからプログラムを実行します。

UFT One インストール・パッケージをダウンロードして展開すると，以下のファイルを利用できるようになります。

- Full UFT One DVD Release または Core UFT One DVD Bundle：**.zip** ファイルをダウンロードして展開した場合。
- Package for the Web Bundle：**Setup.exe** ファイルをダウンロードして実行し，パッケージの内容を展開した場合。

> **注意:** インストール・ファイルは，パスが 80 文字以内の**空の**フォルダに展開されるようにしてください。
>
> Windows では，ファイルのパスの長さが 260 文字に制限されています。個々のインストール・ファイルのファイル・パスがこれより長い場合，インストールは失敗します。そのような場合は，展開したインストール・ファイルをパスが短い場所に移動してください。

UFT One の前提条件をインストールするためのサイレント・コマンド

UFT One の前提条件をインストールするには，以下のコマンド構文を使用します。

UFT One Add-in for ALM または UFT One Run Results Viewer のみをインストールする場合は，これらの前提条件のサブセットをインストールします。詳細については，「UFT One Add-in for ALM または UFT One Run Results Viewer の前提条件のインストール」(38ページ)を参照してください。

> **注:**

- 一部の項目では，システムによって使用するコマンドが異なります。お使いのシステムに最適なコマンドを実行してください。
- Windows 10 以降では，WSE は Microsoft による公式サポートの対象外となりました。

UFT One のすべての前提条件のインストール

```
<UFT One インストール・ファイル>\Unified Functional
Testing\EN\setup.exe /InstallOnlyPrerequisite /s
```

.NET Framework 4.8 のインストール

```
<UFT One インストール・ファイル>\prerequisites\dotnet48\ndp48-x86-
x64-allos-enu.exe /q /norestart
```

.NET Desktop Runtime のインストール(UIA Pro アドインとパラレル・ランナー UI に必要)

UFT One 23.4：次のコマンドを使用して .NET 6.0.3 Desktop Runtime をインストールします。

```
<UFT One インストール・ファイル>\prerequisites\dotnet_desktop_
runtime6_3\windowsdesktop-runtime-6.0.3-win-x86.exe /q /norestart
```

```
<UFT One インストール・ファイル>\prerequisites\dotnet_desktop_
runtime6_3\windowsdesktop-runtime-6.0.3-win-x64.exe /q /norestart
```

UFT One 24.2 以降：次のコマンドを使用して .NET 8 Desktop Runtime をインストールします。

```
<UFT One インストール・ファイル>\prerequisites\dotnet_desktop_
runtime8_0\windowsdesktop-runtime-8.0.0-win-x86.exe /q /norestart
```

```
<UFT One インストール・ファイル>\prerequisites\dotnet_desktop_
runtime8_0\windowsdesktop-runtime-8.0.0-win-x64.exe /q /norestart
```

Microsoft Visual C++ 2022 Redistributable のインストール

次のコマンドのいずれかを実行して Microsoft Visual C++ 2022 Redistributable をインストールします。

```
<UFT One インストール・ファイル>\prerequisites\vc2022_redist_
x86\vcredist_x86.exe /quiet /norestart
```

```
<UFT One インストール・ファイル>\prerequisites\vc2022_redist_
x64\vcredist_x64.exe /quiet /norestart
```

Microsoft Access データベース・エンジン 2016 のインストール

```
<UFT One インストール・ファイル
>\prerequisites\msade2016\AccessDatabaseEngine.exe /quiet
```

Microsoft WSE 2.0 SP3 Runtime のインストール(WSE セキュリティ設定を使用して Web サービスのテストを実行する場合にのみ必要)

https://marketplace.microfocus.com/appdelivery/content/uft-one-installation-prerequisites から **.msi** をダウンロードし，次のコマンドを実行します。

```
MicrosoftWSE2.0SP3Runtime.msi /quiet /norestart ALLUSERS=1
```

Microsoft WSE 3.0 Runtime のインストール(WSE セキュリティ設定を使用して Web サービスのテストを実行する場合にのみ必要)

https://marketplace.microfocus.com/appdelivery/content/uft-one-installation-prerequisites から **.msi** をダウンロードし，次のコマンドを実行します。

```
MicrosoftWSE3.0Runtime.msi /quiet /norestart ALLUSERS=1
```

Microsoft PDM インストーラのインストール

次のコマンドのいずれかを実行します。

```
<UFT One インストール・ファイル>\prerequisites\pdm\ScriptDebugging_
x86.msi /quiet /norestart
```

```
<UFT One インストール・ファイル>\prerequisites\pdm\ScriptDebugging_
x64.msi /quiet /norestart
```

UFT One Add-in for ALM または UFT One Run Results Viewer の前提条件のインストール

UFT One Add-in for ALM または UFT One Run Results Viewer のみをインストールする場合は，マシンに次の前提条件をインストールします。

「.NET Framework 4.8 のインストール」(36ページ)

UFT One のサイレント・インストール

msiexec コマンドを実行して，UFT One をインストールします。使用する構文は次のとおりです。

インストール・フォルダを指定しない場合，UFT One は標準設定のインストール・フォルダにインストールされます。

64 ビット

```
msiexec /i "<UFT One インストール・ファイル>\Unified Functional
Testing\MSI\Unified_Functional_Testing_x64.msi" /qb
```

32 ビット

```
msiexec /i "<UFT One インストール・ファイル>\Unified Functional
Testing\MSI\Unified_Functional_Testing_x86.msi" /qb
```

標準設定の機能とアドイン

標準設定で次の機能とアドインがインストールされます。

- ランタイム・エンジン
- UI デザイナおよび IDE

- Run Results Viewer
- サンプル
- AI オブジェクト検出（UFT One 23.4：AI 機能）
- ABBYY OCR エンジン

> **注:** Core UFT One DVD Bundle をダウンロードした場合，標準設定では ABBYY OCR エンジン機能はインストールされません。詳細については，「インストール・パッケージ」(13ページ)を参照してください。

- アドイン：
  - ActiveX Add-in
  - Visual Basic Add-in
  - Web Add-in

インストールする機能をカスタマイズする場合は，「UFT One のサイレント・インストール：UFT One の特定の機能を含める」(39ページ)を参照してください。

他の msiexec オプションもサポートされています。

既存のインストールを修復する場合は，次のようになります。

```
msiexec /q /fa "<UFT One インストール・ファイル>\Unified Functional
Testing\MSI\Unified_Functional_Testing_x<64 or 86>.msi"
```

プログラムをアンインストールする場合は，次のようになります。

```
msiexec /q /x "<UFT One インストール・ファイル>\Unified Functional
Testing\MSI\Unified_Functional_Testing_x<64 or 86>.msi"
```

UFT One のサイレント・インストール：UFT One の特定の機能を含める

標準設定では，サイレント・インストール・コマンドを使用すると，「標準設定の機能とアドイン」(38ページ)で説明されているように，UFT One を標準設

定の機能およびアドインとともにインストールします。

インストールに含める機能とアドインを指定するには，サイレント・インストール・コマンドに ADDLOCAL MSI プロパティを追加します。ADDLOCAL プロパティの機能のリストで，以下に説明する値を使用して，インストールに含めるものを指定します。

> **注:**
> - ADDLOCAL プロパティを使用する場合は，ランタイム・エンジンをインストールする **Core_Components** 機能を含める必要があります。
> - 値の区切りにはコンマを使用する必要があります。値にスペースを入れてはいけません。
> - ADDLOCAL プロパティを使用して機能をインストールすると，その親機能も常にインストールされます。

以下の例は，ADDLOCAL プロパティの構文とそれに関連する機能を示しています。

次の例では，ADDLOCAL プロパティを使用して，UFT One ランタイム・エンジン のみをインストールします。

```
msiexec /i "<UFT One インストール・ファイル>\Unified Functional
Testing\MSI\Unified_Functional_Testing_x64.msi" /qb ADDLOCAL="Core_
Components" INSTALLDIR="<UFT_Folder>" ALLOW_OTHERSRUNTESTS=1
```

次の例では，ADDLOCAL プロパティを使用して，Java Add-in ありで標準インストールを行います。

```
msiexec /i "<UFT One インストール・ファイル>\Unified Functional
Testing\MSI\Unified_Functional_Testing_x64.msi" /qb ADDLOCAL="Core_
Components,IDE,Test_Results_Viewer,Samples,Java_Add_in"
INSTALLDIR="<UFT_Folder>">"
```

次の例では，ADDLOCAL プロパティを使用して，Web Add-in，Java Add-in，および DCOM 設定のセットありで標準インストールを行います。

```
msiexec /i "<UFT One インストール・ファイル>\Unified Functional
Testing\MSI\Unified_Functional_Testing_x64.msi" /qb ADDLOCAL="Core_
Components,Samples,Java_Add_in" CONF_DICOM=1 INSTALLDIR="<UFT_
Folder>"
```

詳細については，次を参照してください。

- 「UFT One 機能の ADDLOCAL 値」(41ページ)
- 「UFT One アドインの ADDLOCAL 値」(43ページ)
- 「UFT Developer コンポーネントの ADDLOCAL 値」(44ページ)

UFT One 機能の ADDLOCAL 値

値	説明
Core_Components	(必須) UFT One ランタイム・エンジンをインストールします。
IDE	UFT One のユーザ・インタフェースをインストールします。
Test_Results_Viewer	Run Results Viewer をインストールします。
Samples	UFT One のインストール時にサンプル・アプリケーションもインストールします。
ALM_Plugin	UFT One Add-in for ALM をインストールします。 **注：** UFT One Add-in for ALM は，UFT One と同じユーザ・インタフェース言語でインストールされます。

AIServices	UFT One で AI オブジェクト検出と AI ベースのテストを使用できるようにします。 **前提条件：** 次のものがインストールされていることを確認してください。 • 64 ビット・オペレーティング・システム。 • Microsoft Visual C++ 2022 再頒布可能パッケージ • 必要な Windows 機能。ご使用の Windows オペレーティング・システムによって異なります。 **Windows OS - Microsoft Media Feature Pack** a. ［コントロールパネル］から，［**プログラムと機能**］＞［**Windows の機能の有効化または無効化**］を選択します。 b. ［Windows の機能］ウィンドウで，［**メディア機能**］を有効にします。 c. コンピュータを再起動して変更内容を有効にします。 **Windows Server 2012 以降 - Microsoft Media Foundation** 1. ［コントロールパネル］から，［**プログラムと機能**］＞［**Windows の機能の有効化または無効化**］を選択します。 2. ［役割と機能の追加ウィザード］ウィンドウで，［機能］タブが表示されるまで［**次へ**］をクリックします。 3. ［**Media Foundation**］を有効にします。 4. ［**インストール**］をクリックします。 5. 変更内容を有効にするには，コンピュータを再起動します。 Windows 機能を有効にするための最新の手順については，Microsoft のドキュメントを参照してください。

Abbyy_OCR	UFT One で ABBYY OCR テキスト認識を使用できるようにします。 **注**：Core UFT One DVD Bundle には，ABBYY OCR エンジン・ファイルは含まれていません。このインストール・パッケージをダウンロードしており，ABBYY OCR エンジン機能をインストールする場合は，次の手順を実行します。 1. スタンドアロンの UFT OCR Expansion Pack をダウンロードします。使用する Core UFT One DVD Bundle バージョンに一致するバージョンをダウンロードしてください。 インストール・ファイルには，無償試用版のページから，または「ソフトウェアのライセンスとダウンロード」ページでアカウントを選択してアクセスできます。 2. 次の構文を使用して，msiexec コマンドに UFT OCR Expansion Pack の **.zip** ファイルの場所を追加します。 `msiexec /norestart /qn /i "<UFT One インストール・ファイル>\Unified Functional Testing\MSI\Unified_Functional_Testing_x64.msi" /l*xv "C:\UFT_Install.log" ADDLOCAL="Core_Components,Abbyy_OCR,Samples" ABBYY_SOURCEFILE="<UFT OCR Expansion Pack パス>\UFT_<バージョン番号>_OCR_Expansion_Pack.zip"`

UFT One アドインの ADDLOCAL 値

ADDLOCAL プロパティの機能リストで次の値を使用して，さまざまな UFT One アドインをインストールします。

- **ActiveX_Add_in**
- **Visual_Basic_Add_in**
- **Web_Add_in**
- **Delphi_Add_in**
- **Flex_Add_in**（標準ではサポートされなくなりました）
- **Java_Add_in**
- **_Net_Add_in**
- **Silverlight_Add_in**（標準ではサポートされなくなりました）

- **WPF_Add_in**
- **Oracle_Add_in**
- **PDF_Add_in**
- **PeopleSoft_Add_in**
- **PowerBuilder_Add_in**
- **Qt_Add_in**
- **SAP_Solutions_Add_in**
- **SAP_eCATT_integration**
- **Siebel_Add_in**
- **Stingray_Add_in**
- **TE_Add_in**
- **VisualAge_Add_in**

Web 2.0 アドインを使用する場合は，Web Add-in もインストールする必要があります。Web 2.0 アドインをインストールするには，「Web 2.0 アドインのインストール」(48ページ)を参照してください。

UFT Developer コンポーネント の ADDLOCAL 値

値	説明
UFTDeveloper_Engine	UFT Developer ランタイム・エンジンをインストールします。
UFTDeveloper_Client	UFT Developer クライアントをインストールします。
Vs2013Addin **Vs2015Addin** **Vs2017Addin** **Vs2019Addin** **Vs2022Addin**	Microsoft Visual Studio の該当するバージョン用の UFT Developer プラグインをインストールします。
IntelliJAddin	IntelliJ IDEA 用の UFT Developer プラグインをインストールします。

EclipseAddin	Eclipse 用の UFT Developer プラグインをインストールします。
ECLIPSE_INSTALLDIR	Eclipse IDE のパス。

UFT One のサイレント・インストール：UFT One 設定オプションの設定

このセクションでは，「UFT One 設定画面」(31ページ)で説明されているインストール設定オプションで使用するサイレント・インストール・プロパティを示します。

設定オプション	インストール・コマンドに追加するプロパティ
Chrome，Chromium Edge，Firefox のオプションを設定します	**ALLOW_BROWSER_EXT** **標準設定**：1。 UFT One がブラウザ・ポリシーを更新しないようにする場合や，以前の UFT One インストールで実行された更新を元に戻す場合は，**ALLOW_BROWSER_EXT=0** を指定してインストールを実行します。
Internet Explorer の構成設定	**CONF_MSIE**
ALM からの UFT One のリモート実行を許可する	**ALLOW_RUN_FROM_ALM** **標準設定**：0。このオプションをサイレント・インストール用に設定するには，値を 1 にセットします。
オートメーション・スクリプトからの UFT One のリモート実行を許可する	**ALLOW_RUN_FROM_SCRIPTS** **標準設定**：0。このオプションをサイレント・インストール用に設定するには，値を 1 にセットします。
IMPROVEMENTPROGRAM=0	(オプション) UFT One 改善プログラムのための使用状況データ収集を無効にするようにサイレント・インストールに指示します。詳細については，「UFT One 改善プログラム」(27ページ)を参照してください。

> **注意:** オートメーション・スクリプトから UFT One をリモートで実行すると，リモート・ユーザがこのマシン上の UFT One を制御できるようになるため，UFT One コンピュータがセキュリティ・リスクに曝されます。

標準設定では，サイレント・インストール時に，オートメーション・スクリプトを使用して UFT One をリモート制御する際に必要となる DCOM 設定が構成されません。

オートメーション・スクリプト用の DCOM 設定を構成するには，サイレント・インストール・コマンドで次の構文を使用します。

```
ALLOW_RUN_FROM_ALM=1
ALLOW_RUN_FROM_SCRIPTS=1
```

UFT One のサイレント・インストール：コマンドの追加プロパティ

このセクションでは，UFT One のサイレント・インストール・コマンドで使用できる追加のプロパティを示します。

コマンド / 引数	説明
LICID=<ライセンス ID>	（オプション）UFT One ライセンスをインストールするときに指定するライセンス ID。**標準設定**：20528（Functional Testing Concurrent User） **注**：UFT One のインストール時に UFT Developer 機能をインストールした場合，この機能を使用するには，ライセンス ID 10594（UFT One Concurrent User）または 23078（UFT Ultimate Concurrent User）が必要です。
LICSVR=<サーバ名>	（ライセンス ID を指定した場合は必須）UFT One のライセンスをインストールするときに指定するライセンス・サーバの名前または IP アドレス。

コマンド / 引数	説明
MsiProperties	(オプション) 任意の MSI プロパティまたはパラメータ (例：**INSTALLDIR**)。各 MSI プロパティとその定義は引用符 ("") で囲まれている必要があり，スペースを入れてはいけません。 **注：INSTALLDIR** を使用してインストール・フォルダを指定できるのは，新規インストールを実行する場合に限られます。アップグレード・シナリオでサイレント・インストールを実行すると，UFT One は前のバージョンと同じ場所にインストールされます。
MsiFlags	(オプション) MsiProperties 引数に含まれない任意の MSI オプション，フラグ，その他の命令 (例：ログ・コマンド)。

UFT One のサイレント・インストール：ローカライズされたバージョンの UFT One のインストール

標準設定では UFT One は，英語でインストールされます。

オペレーティング・システムの言語で UFT One をインストールするには，PRODUCT_LOCALE プロパティを **msiexec** コマンドに追加します。使用するプロパティ値によって，ローカライズされた UFT One の言語が決まります。

オペレーティング・システムの言語に一致するプロパティ値を使用してください。一致していない場合，UFT One は英語でインストールされます。

OS の言語	PRODUCT_LOCALE プロパティの値
中国語	**"CHS"**
フランス語	**"FRA"**
ドイツ語	**"DEU"**
日本語	**"JPN"**

次の例では，中国語版の UFT One をインストールし，ADDLOCAL プロパティを使用して .NET Add-in をインストールします。

```
 msiexec /i "<UFT One インストール・ファイル>\Unified Functional
Testing\MSI\Unified_Functional_Testing_x64.msi" /qb ADDLOCAL="Core_
Components,Samples,_Net_Add_in" PRODUCT_LOCALE="CHS"
INSTALLDIR="<UFT_Folder>"
```

Web 2.0 アドインのインストール

UFT One の Web 2.0 アドイン（JQueryUI や Dojo など）は，UFT One の Web Extensibility の一部としてサポートされており，個別にインストールする必要があります。

次の構文で msiexec コマンドを使用して Web 2.0 アドインをインストールします。

```
msiexec /qn /i "<UFT One インストール・ファイル>\Extensibility and
Toolkits\Web2AddinSetup\Web2AddinSetup.msi"
ADDLOCAL=ASPAjax,Dojo,GWT,jQueryUI,YahooUI,SiebelOpenUI,ExtJS,Sales
forceLightning
```

必要な Web 2.0 アドインの特定の ADDLOCAL 値を含めるか除外します。

スタンドアロン UFT One Add-in for ALM のインストール

UFT One をインストールせずに UFT One Add-in for ALM をインストールするには，スタンドアロンの ALM プラグイン MSI ファイルを実行します。

コマンド・ラインで msiexec コマンドを実行して，UFT One Add-in for ALM をインストールします。使用する構文は次のとおりです。

```
msiexec /i "<UFT One インストール・ファイル>\ALMPlugin\MSI\Unified_
Functional_Add-in_for_ALM.msi" /qn
```

msiexec コマンドに PRODUCT_LOCALE プロパティを追加することで，Add-in for ALM をオペレーティング・システムの言語でインストールできます。PRODUCT_LOCALE プロパティの詳細については，「UFT One のサイレント・インストール：ローカライズされたバージョンの UFT One のインストール」(47ページ)を参照してください。

次のステップ：

- 「インストールの検証」(63ページ)

Package for the Web Bundle からの UFT One のインストール

このセクションでは，軽量の UFT One インストール・パッケージから UFT One をインストールする方法について説明します。このプロセスを実行する前に，必ず「インストールの前に」(19ページ)の手順を確認してください。

このセクションの内容：

- 概要 50
- UFT One Package for the Web Bundle のダウンロード 51
- インストール・ウィザードを使用した UFT One のインストール 51
- コマンド・ライン・インタフェースを使用した UFT One のインストール 52

概要

Package for the Web Bundle は，自己展開型インストール・パッケージで，MSI インストール・プログラムが入っています。

このバージョンの UFT One のインストールには，次の手順が含まれます。

1. インストール・パッケージを展開します。
2. MSI インストール・プログラムを実行して，UFT One をインストールします。

これらの手順は，まとめて自動的に実行することもできますが，個別に実行することもできます。

このパッケージには UFT One の前提条件が含まれていますが，自動的にはインストールされません。前提条件をインストールする必要がある場合は，インストール・パッケージを展開して，そのインストール・プログラムを実行してから，MSI インストールを実行してください。

以下のセクションでは，UI ウィザードまたはコマンド・ライン・インタフェースを使用してこのインストールを実行する方法について説明します。

その他の UFT One インストール・パッケージの詳細については，「インストール・パッケージ」(13ページ)を参照してください。

> **注意:** インストール・ファイルは，パスが 80 文字以内の**空の**フォルダに展開されるようにしてください。
>
> Windows では，ファイルのパスの長さが 260 文字に制限されています。個々のインストール・ファイルのファイル・パスがこれより長い場合，インストールは失敗します。そのような場合は，展開したインストール・ファイルをパスが短い場所に移動してください。

UFT One Package for the Web Bundle のダウンロード

無償試用版のページから，または「ソフトウェアのライセンスとダウンロード」ページでアカウントを選択して，インストール・パッケージにアクセスします。

UFT One Package for the Web Bundle をダウンロードします。

インストール・ウィザードを使用した UFT One のインストール

ダウンロードした ***Setup.exe** ファイルを実行します。このファイルは自己展開して必要なインストール・ファイルが用意され，自動的にインストールが実行されます。

このパッケージで提供されている前提条件のいずれかをインストールする必要がある場合は，次の手順を実行します。

1. ファイルの展開が完了したら，ウィザードを停止します。
2. 展開したファイルに含まれている **setup.exe** ファイルを実行して，足りないすべての前提条件をインストールします。

   または，展開されたファイルに含まれている **prerequisites** フォルダにある実行可能ファイルを使用して，特定の前提条件を手動でインストールします。

3. 展開されたファイルに含まれている **.msi** ファイルを実行して，UFT One のインストールを実行します。

インストール時にカスタマイズできる選択項目や設定内容の詳細については，「インストール・ウィザードを使用した UFT One のインストール」(26ページ)を参照してください。

コマンド・ライン・インタフェースを使用した UFT One のインストール

ダウンロードした ***Setup.exe** ファイルをコマンド・ラインで実行すると，インストール・プロセスのさまざまな側面を制御できます。

- サイレント・インストールを行うか，ユーザ・インタフェースを表示するかを選択できます。
- インストール・パッケージを展開して MSI プログラムを自動的に実行するか，展開後に停止するかを指定できます。

  ファイルの展開後にプロセスを停止すると，次のことが可能になります。

  - インストールを実行する前に前提条件をインストールする。
  - MSI 実行用にコマンド・ライン・オプションを指定するか，サイレント実行を指定するか，機能，アドイン，オプションを設定してインストールをカスタマイズする。

UFT One をインストールするには，次のコマンドを使用します。

コマンド構文	説明
UFT_One_<バージョン>_Setup.exe -y	インストール・パッケージを展開して，シンプルな UI（進行状況バーのみのダイアログ・ボックス）を使用して UFT One をインストールします。
UFT_One_<バージョン>_Setup.exe -y -gm2	インストール・パッケージをサイレントに展開し，フル・インストール・ウィザードの UI を使用して UFT One をインストールします。

コマンド構文	説明
UFT_One_<バージョン>_Setup.exe -InstallPath="c:\<パス>"	標準設定のフォルダではなく，特定のターゲット・フォルダにインストール・パッケージを展開します。
UFT_One_<バージョン>_Setup.exe -! <パラメータ・リスト>	インストール・パッケージを展開し，定義されたパラメータ値を MSI インストーラに渡して，UFT One をインストールします。 可能なパラメータ： • **/s**：前提条件のダイアログ・ボックスを表示しません。 このオプションを指定しない場合，前提条件のダイアログ・ボックスを閉じるには，インストール中にユーザの操作が必要になります。 • **/qn**：UFT One のインストールを完全なサイレント・モードで行います。 • **/l*v "<ログ・ファイルを生成する場所>.log"**指定した場所にインストール・ログ・ファイルを生成します。標準設定の場所は **%temp%** です。 • **INSTALLDIR="<インストール・フォルダ>"**：UFT One を指定した場所にインストールします(アップグレード・シナリオでは関係ありません) 。 • **ADDLOCAL="<インストールする機能>"**：詳細については，「UFT One のサイレント・インストール：UFT One の特定の機能を含める」(39ページ)を参照してください。
UFT_One_<バージョン>_Setup.exe -ExecuteFile=""	インストール・パッケージを展開しますが，UFT One のインストールは実行しません。 展開が完了したら，「UFT One の前提条件をインストールするためのサイレント・コマンド」(35ページ)で説明されている手順で，前提条件をインストールできます。 また，「UFT One のサイレント・インストール」(34ページ)で説明されているコマンドとオプションを使用し，必要なアドインを選択して UFT One のサイレント・インストールを実行することもできます。 **ヒント**：サイレント・インストール・コマンドで，**<UFT One インストール・ファイル>**をインストール・コンテンツを展開したフォルダに変更します。

例

標準設定の場所（**c:\temp**）にパッケージを展開します。ただし，UFT One のインストールは開始しません。

```
UFT_One_2021_Setup.exe -y -ExecuteFile=""
```

指定した場所（**c:\UFTinstall**）にサイレント・モードでパッケージを展開します。ただし，UFT One のインストールは開始しません。

```
UFT_One_2021_Setup.exe -y -gm2 -InstallPath="c:\UFTinstall" -
ExecuteFile=""
```

パッケージをサイレント・モードで展開し，シンプルな UI を使用して UFT One のインストールを開始します。

```
UFT_One_2021_Setup.exe -y
```

パッケージを展開し，サイレント・モードで UFT One のインストールを開始します。

```
UFT_One_2021_Setup.exe -y -gm2 -! /s /qn
```

パッケージを指定した場所に展開し，UFT One をサイレント・インストールし，ログ・ファイルの場所とインストールの場所を変更して，複数のアドインと機能をインストールします。

```
UFT_One_2021_Setup.exe -InstallPath="C:\2021\extractedUFT" -y -gm2
-! /s /qn /l*v "C:\UFT_INSTALL.log" INSTALLDIR="C:\UFT_Program"
ALLOW_RUN_FROM_ALM=1 ALLOW_RUN_FROM_SCRIPTS=1 CONF_MSIE=1 DLWN_
SCRIPT_DBGR=1 ADDLOCAL="Core_Components,Web_Add_in,ALM_Plugin,Test_
Results_Viewer,Samples,ActiveX_Add_in,Visual_Basic_Add_in,Delphi_
```

```
Add_in,Flex_Add_in"
```

次のステップ：

- 「インストールの検証」(63ページ)

UFT One のアップグレード

製品のどのバージョンからでも，UFT One の最新バージョンに直接アップグレードすることができます。

このセクションの内容：

- アップグレードする前に 56
- アップグレードの実行 57
- UFT One 設定ファイルの場所 57
- アップグレードの注意事項 58

アップグレードする前に

最新バージョンにアップグレードすることで，修正やセキュリティ更新を含め，最新の機能や開発をすべて利用することができます。詳細については，UFT One バージョン・アップグレード・ハブを参照してください。

アップグレード前のバージョンに応じて，次の事項を検討してください。

アップグレード前	検討事項
UFT One バージョン 2021 以前	**EmulatedDevices.xml** ファイルをカスタマイズした場合は，アップグレードする前にファイルをバックアップします。アップグレードが完了したら，**<UFT One インストール・フォルダ>/bin** ディレクトリにある新しい **EmulatedDevices.xml** ファイルにカスタマイズの内容を追加します。
UFT バージョン 14.53 以前	UFT One は，NET Framework 4.8 を使用します。以前の UFT バージョンでは，以前の .NET Framework バージョンを使用していました。 「UFT One サポート・マトリクス」を参照して，オペレーティング・システムに新しいバージョンとの互換性があることを確認してください。

アップグレード前	検討事項
UFT バージョン 12.54 以前	UFT One をインストールする前に，UFT および関連するすべてのパッチをアンインストールしてください。

アップグレードの実行

UFT One をアップグレードするには，次の手順を実行します。

1. 無償試用版のページから，または「ソフトウェアのライセンスとダウンロード」ページでアカウントを選択して，新しいバージョンのインストール・ファイルをダウンロードします。
2. システムを再起動して，システム構成を完全にしておきます。
3. **UFT One_<バージョン番号>_Setup.exe** ファイルを実行し，インストール・ウィザードを使用してアップグレードします。

   または，サイレント・インストール・スクリプトを更新して，新たにダウンロードしたファイルを使用します。

> **注:** アップグレードでは，**実行セッション**および**起動**オプションのみが保持されます。必要に応じて他のすべての設定を再定義します。

UFT One 設定ファイルの場所

UFT One バージョン 24.2 からは，UFT One の設定ファイルは新しい場所に保管されます。

24.2 より前のバージョンからアップグレードした後で UFT One を初めて実行すると，既存のすべての設定ファイルが新しい場所に自動的に移行されます。

これにより，既存の UFT One 設定を新しいバージョンで引き続き使用できます。

UFT One 設定の移行で，移行できなかったファイルがある場合，UFT One はそのファイルを手動で移動するように提案します。そうしない場合，UFT One は，既存の設定ではなく，標準設定を使用します。

次の表に，移行するファイルが含まれるフォルダを示します。右側のフォルダにあるすべてのファイルを左側の新しいフォルダにコピーしてください。

UFT One 24.2 以降	UFT One 2021-23.4	2021 より前の UFT One バージョンからのアップグレード
%APPDATA%\OpenText\UFT	%APPDATA%\Micro Focus\UFT	%APPDATA%\Hewlett-Packard\UFT
%APPDATA%\OpenText\QuickTest Professional	%APPDATA%\Micro Focus\QuickTest Professional	%APPDATA%\HP\QuickTest Professional
%APPDATA%\OpenText\API Testing	%APPDATA%\Micro Focus\API Testing	%APPDATA%\HP\API Testing
%PROGRAMDATA%\OpenText\UFT	%PROGRAMDATA%\Micro Focus\UFT	%PROGRAMDATA%\Hewlett-Packard\UFT
%LOCALAPPDATA%\OpenText\UFT	%LOCALAPPDATA%\Micro Focus\UFT	%LOCALAPPDATA%\HP\UFT

注: 以下のようにダウングレードする場合，既存の設定は保持されず，古いバージョンの標準設定が使用されます。

24.2 以降から 23.4 以前へのダウングレード 。

2021 以降から 15.0.2 以前へのダウングレード 。

アップグレードの注意事項

次の項目は，特定の状況でアップグレードする際の問題に対処します。アップグレードに関連する任意の状況の指示をお読みください。

- 「サイレント・インストール・スクリプトのアップグレード」(59ページ)
- 「ライセンスのアップグレード」(59ページ)
- 「Microsoft Edge Legacy での Web テストに対応したアップグレード」(60ページ)
- 「オートメーション・スクリプトのテキスト認識オプションに対応したアップグレード」(60ページ)
- 「2021 より前の UFT One バージョンからのアップグレード」(60ページ)
- 「2023 より前の UFT One バージョンからのアップグレード」(61ページ)
- 「UFT One バージョン 23.4 以前からのアップグレード」(61ページ)
- 「24.2 より前の UFT One バージョンからのアップグレード」(62ページ)

サイレント・インストール・スクリプトのアップグレード

サイレント・インストール・スクリプトと **Help_Documents** パラメータを含む現在のスクリプトをアップグレードする場合は，このパラメータを削除します。ヘルプ・ドキュメントは，UFT Oneでインストールされなくなりました。

オンラインでヘルプセンターにアクセスするか，ローカル・ドライブにダウンロードできます。［オプション］ダイアログ・ボックス(［**ツール**］＞［**オプション**］＞［**一般**］タブ＞［**ヘルプ**］)からヘルプをダウンロードします。

ライセンスのアップグレード

QuickTest，Service Test，または 12.50 より前の UFT One バージョンからアップグレードする場合は，新規ライセンスを取得する必要があります。

お持ちのライセンスを新しい Functional Testing ライセンス(UFT One および UFT Developer)にアップグレードすることもできます。この手順は必須ではありません。

サポートが必要な場合は，営業担当者にお問い合わせください。

Microsoft Edge Legacy での Web テストに対応したアップグレード

UFT One で，Microsoft WebDriver プログラム（Edge 用 OpenText UFT Agent に必要）の使用方法が変更されました。必要な手順については，Edge 拡張の使用方法に関するトピックを参照してください。

オートメーション・スクリプトのテキスト認識オプションに対応したアップグレード

オートメーション・スクリプトを使用して UFT One を実行し，テキスト認識オプションをスクリプトに追加している場合，次のプロパティが使用されなくなったため更新が必要です。

更新対象	更新後
TextRecognitionLanguages	AbbyyOcrLanguages
TextRecognitionOrder	TextRecognitionOcrMechanism

2021 より前の UFT One バージョンからのアップグレード

2021 より前のバージョンから 2021 にアップグレードした後に，UFT One を初めて実行すると，既存のすべての設定ファイルが新しい場所に自動的に移行されます。

アップグレード直後に別のライセンスをインストールすると，UFT One を初めて実行したときにライセンスが自動的に上書きされ，UFT One の起動は失敗します。

したがって，アップグレード後は，一度 UFT One を開いてから新しいライセンスをインストールします。

2023 より前の UFT One バージョンからのアップグレード

UFT One では，順序位置を使用した AI オブジェクトの識別で，より一貫した計算が行われます。その結果，既存のテストでいくつかのステップを調整しなければならない場合があります。

順序位置で記述した AI オブジェクトが正しく識別されていない場合，アプリケーションを再検査して，使用するのに最適な記述を見つけます。たとえば，オブジェクトを上から 3 番目と記述している場合，左から 4 番目と記述したほうが，より一貫した結果が得られる可能性があります。

AI オブジェクトに順序位置を使用する方法の詳細については，UFT One ヘルプセンターを参照してください。

UFT One バージョン 23.4 以前からのアップグレード

UFT One バージョン 23.4 および 24.2 では，テキスト認識にいくつかの機能拡張が導入されました。以前の UFT One バージョンで最後に更新されたテストを実行する場合，いくつかのテキスト認識設定を調整しなければならない場合があります。

- UFT One 23.4 で変更された点：AI ベースのテキスト認識

  ノイズをトリミングするオプションと UI コントロールの境界を考慮するオプションが追加されました（標準設定で選択されています）。AI テキスト認識設定の詳細については，UFT One ヘルプセンターを参照してください。

- UFT One 23.4 および UFT One 24.2 で変更された点：ABBYY OCR エンジンを使用したテキスト認識

  UFT One で，ABBYY OCR エンジンの新しいバージョンが使用されるようになりました。必要に応じて，テキスト認識設定を調整してください。［**プレビュー**］表示枠を使用して，テキスト認識が最適になるようにさまざまな設定を試すことができます。ABBYY テキスト認識設定の詳細については，UFT One ヘルプセンターを参照してください。

24.2 より前の UFT One バージョンからのアップグレード

24.2 より前のバージョンからアップグレードする場合は，次の問題を考慮してください。

- Core UFT One DVD Bundle と UFT OCR Expansion Pack をインストールしていた場合は，アップグレード時に両方のインストール・パッケージの新しいバージョンをダウンロードしてください。Core UFT One DVD Bundle 24.2 では，ABBYY OCR エンジンをサポートするために UFT OCR Expansion Pack 24.2 が必要です。
- 24.2 で，SAP SuccessFactors オブジェクトの認識が変更されました。既存の SAP SuccessFactors テストで SAP オブジェクトまたは Web オブジェクトが識別されない場合は，次のいずれかを実行してテストを更新します。
  - オブジェクト・リポジトリで，［**アプリケーションから更新**］ボタン を使用してオブジェクトの記述を更新します。詳細については，Update description properties を参照してください。
  - オブジェクトをスパイし，オブジェクト・リポジトリに追加して，オブジェクトを再度学習します。次に，新しいオブジェクトを使用するようにテスト・ステップを更新します。
  - 関連するステップを削除し，記録して再作成します。

インストールの検証

インストールのステータスを確認するには，UFT Oneインストール・チェック・ツールを使用します。

このセクションの内容：

- UFT Oneインストール・チェック・ツールの分析を実行する 63
- UFT Oneインストール・チェック・ツールのレポートについて 64

UFT Oneインストール・チェック・ツールの分析を実行する

UFT Oneのインストール後，次のようにインストール検証ツールにアクセスします。

1. **追加インストール要件**ユーティリティを開きます（Windowsの［スタート］メニューから利用可能）。
2. ［**実行**］をクリックしてユーティリティを実行します。このユーティリティは，UFT Oneを使用するための設定前提条件を処理します。インストールに必要な任意のウィザードを実行します。
3. **インストール・チェック・ツール**を開きます（Windowsの［スタート］メニューから利用可能）。
4. ［インストール チェック ツール］ダイアログで，［**分析**］をクリックして，現在のUFT Oneインストールおよび設定ステータスに関するレポートを生成します。
5. レポートが生成されたら，必要に応じて次のいずれかをクリックします。
   - **レポートを表示**：ブラウザでレポートをhtmファイルとして表示します。
   - **電子メールの送信**：レポートを別のユーザに送信します。このオプションを使用するには，UFT Oneマシンで標準設定の電子メール・アプリケーションを設定する必要があります。

UFT One インストール・チェック・ツールのレポートについて

UFT One インストール・チェック・ツールは，インストールおよび構成状態を期待値と比較して検証します。

期待どおりに返された値は，緑で強調表示され，予期しない値は赤で強調表示されます。

> **注:**
> - インストール・チェック・ツールは，リモート・エージェントが管理者モードで実行されている場合にのみ，［リモート エージェントの設定］ダイアログのデータを返します。
> - **UFT One 24.1 以降**：インストール・チェック・ツールは，UFT One の機能に関連する可能性のあるさまざまなフォルダと登録キーで使用可能な権限を表示します。サポートが必要な場合，この情報がサポート・チームにとって有益である可能性があります。

その他の参照項目：

- 「UFT One のアップグレード」(56ページ)
- 「インストールの前提条件」(19ページ)
- 「インストール時の既知の問題」(67ページ)

Web 2.0 アドインまたは Extensibility ツールキットのインストール

このセクションでは，Web 2.0 アドインまたは Extensibility ツールキットをインストールする方法について説明します。

- Web 2.0 Add-in を使用すると，Web 2.0 環境で HTML ユーザ・インタフェース・オブジェクト（コントロール）をテストできます。利用可能な Web 2.0 アドインのリストについては，UFT One オンライン・ヘルプの Web 2.0 Add-ins を参照してください。
- Extensibility ツールキットを使用すると，UFT One アドインで現在サポートされていないアドイン・オブジェクトのサポートを開発できます。

> **注:** このインストールは，UFT One を Full UFT One DVD Release または Core UFT One DVD Bundle からインストールした場合にのみ利用できます。詳細については，「インストール・パッケージ」(13ページ)を参照してください。

Web 2.0 アドインまたは Extensibility ツールキットをインストールするには

1. UFT One の **Setup.exe** ファイルを実行し，インストールの開始画面で［**アドインによる機能拡張と Web 2.0 ツールキット**］オプションを選択します。
2. **Add-in Extensibility と Web 2.0 Toolkit のサポート**・ページで必要に応じて［Extensibility SDK］または［Web 2.0 ツールキット］インストール・オプションを選択します。
3. ウィザードの手順に従って，インストール作業を行います。

インストールが完了すると，ツールキット・ファイルと Extensibility SDK は，**<UFT One インストール・フォルダ>\dat\Extensibility** フォルダに格納されています。

Web 2.0 アドインは，UFT One を開始したときに，アドイン・マネージャで Web Add-in の子ノードとして表示されます。

その他の参照項目：

- 「インストール・パッケージ」(13ページ)
- 「インストール・ウィザードを使用した UFT One のインストール」(26ページ)

インストール時の既知の問題

このセクションでは，UFT One のインストールに関するトラブルシューティングと制限事項について説明します。

このセクションの内容：

- 使用中のファイル 67
- コンポーネントの登録に失敗しました 68
- UFT One インストールの変更または修復 68
- UFT One インストールと他の ADM ソフトウェア 68
- UFT One インストールと Microsoft ソフトウェア 70
- UFT One インストールと OpenText UFT Agent(ブラウザのサポート) 73
- UFT One インストールと 64 ビット・アプリケーション 74
- UFT One インストールと Java 74
- 英語以外の言語での UFT インストール 75

使用中のファイル

インストール・プロセスで［UFT One 使用中のファイル］ダイアログ・ボックスが表示される場合は，［**アプリケーションを閉じて開き直します。**］を選択します。

アプリケーションが UFT One によって自動的に閉じられ，インストールが続行されます。

再起動の後で［UFT One 使用中のファイル］ダイアログ・ボックスに，開いているアプリケーションとして **Explorer** が表示された場合は，次のいずれかを実行します。

アプリケーションを閉じて開き直します。	インストールに必要なアプリケーションを自動的に閉じるように，UFT One に指示します。
アプリケーションを閉じません。	インストールを続行するように，UFT One に指示します。このオプションを選択した場合，インストール後にコンピュータを再起動する必要があります。

コンポーネントの登録に失敗しました

インストール中にコンポーネントの登録に失敗したことを示すメッセージが表示された場合は，［**OK**］をクリック**しないでください**。

代わりに，**%TEMP%** ディレクトリにある **VC2015Prerequisite_yyyymmdd_XXXXXX.log** ファイルで問題を確認してください。ログにサービスが正しく起動しなかったことが示された場合は，サービスを手動で再起動して，インストールを再開してください。

UFT One インストールの変更または修復

UFT One インストールを変更または修復するには，特定のレジストリ・キーへの書き込みアクセス許可が必要です。

これらのアクセス許可なしでコントロール・パネルからインストールを修復しようとすると，次のような動作になります。

インストール・ウィザードが停止し，エラー・メッセージが表示されます。

- 管理者として Windows にログインし，コントロール・パネルから UFT One インストールを**変更**または**修復**します。
- UFT One インストール・パッケージから UFT One MSI インストール・プログラムを実行し，［**変更**］または［**修復**］オプションを選択します。

UFT One インストールと他の ADM ソフトウェア

次の表では，他の ADM ソフトウェアを UFT One とともにインストールする場合のトラブルシューティングと制限事項について説明します。

Sprinter	UFT One と Sprinter を同じコンピュータ上で使用している場合，UFT One と Sprinter のどちらかを変更したときは，もう一方の製品に対して**修復**を実行する必要があります。
ALM	UFT One がインストールされているのと同じコンピュータに ALM クライアントがインストールされている場合，UFT One をアンインストールすると，ムービー（**.fbr**）ファイルの関連付けが削除されることがあります。 そのため，Micro Player アプリケーションを使って，ALM で管理されている不具合に関するムービーを表示できないことがあります。 **回避策**：Windows のファイル・オプションのダイアログ・ボックスで，ムービー・ファイルに Micro Player アプリケーションを再度関連付けます。
UFT Developer	• インストール時に関連する IDE がインストールされていない場合でも，［**カスタム セットアップ**］画面で UFT Developer Visual Studio または Eclipse プラグインを選択できます。 IDE を後からインストールすると，UFT Developer プラグインが使用できるようになりません。 **回避策**：必要な IDE をインストールした後で，インストールの修復を実行します。 • UFT One のインストールの一部として UFT Developer のサイレント・インストールを実行する場合は，必ず新しい構文を使用してください。 詳細については，「UFT Developer コンポーネント の ADDLOCAL 値」(44ページ)を参照してください。 以下のようなエラーが発生した場合は，古い LeanFT サイレント・インストール・コマンド構文を使用していないことを確認してください。 `Error: The installer has encountered an unexpected error installing this package. This may indicate a problem with this package. The error code is 2711. The arguments are: LeanFT`

UFT One インストールと Microsoft ソフトウェア

次の表では，UFT One を Windows にインストールする場合や，UFT One を他の Microsoft ソフトウェアとともに使用する場合のトラブルシューティングと制限事項について説明します。

ソフトウェア	UFT の手順
Windows 10 および 11	• Windows 10 または 11 オペレーティング・システムに UFT One をインストールする場合，UFT One のインストールを行う前に Cortana とアクション・センターを終了する必要があります。 • Windows 10 または 11 で UFT One から ALM に接続するには，管理者権限が必要です。 UFT One のインストール後すぐに，管理者権限を使用して ALM に接続します。

ソフトウェア	UFT の手順
pdm.dll	**UFT One で GUI テストをデバッグするには，pdm.dll** ファイルがインストールされ登録されていることを確認します。 **pdm.dll** ファイルは，Microsoft Visual Studio および Microsoft Office とともにインストールされ，登録されます。また，Microsoft Internet Explorer でもインストールされます（登録はされません）。 または，UFT One インストールで提供される Microsoft Script Debugger をインストールします。これにより，**pdm.dll** が提供されます。 **Microsoft Internet Explorer とともにインストールされる pdm.dll を登録するには，次の手順を実行します。** 1. 管理者権限があることを確認します。 2. **pdm.dll** ファイルを見つけます。通常は，**c:\program files (x86)\internet explorer** または **c:\program files\internet explorer** のいずれかに格納されています。 3. **pdm.dll** ファイルと **msdbg2.dll** ファイルを，同じフォルダから別の場所に移動します。 4. 次のコマンドを実行します。 **regsvr32 <pdm.dll の完全パス>\pdm.dll** **regsvr32 <pdm.dll の完全パス>\msdbg2.dll** **現在登録されている pdm.dll のバージョンが 9 未満の場合：** 1. Microsoft Script Debugger をアンインストールします（インストールされている場合）。 2. UFT One 追加インストール要件ユーティリティを使用して，Microsoft Script Debugger をインストールします。 Windows の［スタート］メニューから，または **<UFT インストール・フォルダ>\bin\UFTInstallReqs.exe** を実行して，**UFT One インストールの追加要件**ユーティリティを起動します。

ソフトウェア	UFT の手順

Microsoft Office 64 ビット版	同じマシンで UFT One と Microsoft Office 64 ビット版を使用するには，手動での操作が必要になります。これは，これら 2 つのプログラムで使用される Microsoft Access データベース・エンジンのバージョン間の競合によるものです。
	
	次のいずれかを実行します。
	
	• Microsoft Office 64 ビット版をインストールする前に，UFT One をインストールします。
	• UFT One をインストールする前に，管理者コマンド・ラインから，**/quiet** 引数を使用して Microsoft Access データベース・エンジン 2016 32 ビット版をインストールします。詳細については，「Microsoft Access データベース・エンジン 2016 のインストール」(37ページ)を参照してください。
	• **SKIP_MSADE_CHECK** フラグを使用して，UFT Oneをインストールします。これにより，Microsoft Access データベース・エンジン 2016 再頒布可能パッケージをインストールしなくても，UFT One がインストールされます。
	
	サイレント・モードで実行：
	
	`cmd /c MsiExec /norestart /qn /i "<UFT One MSI Path>\Unified_Functional_Testing_x64.msi" /l*xv "<log file path>.log" SKIP_MSADE_CHECK=1`
	
	インストール・ウィザードの使用：
	
	`cmd /c MsiExec /norestart /qf /i "<UFT One MSI Path>\Unified_Functional_Testing_x64.msi" /l*xv "<log file path>.log" SKIP_MSADE_CHECK=1`
	
	後で，API データベース・アクティビティに再頒布可能エンジンが必要であることが判明した場合は，上記の手順に従ってインストールできます。

Windows Server 2012 R2	UFT One を Windows Server 2012 R2 で使用する場合に，API テストおよびコンポーネントを使用するときは，MSU(Microsoft Update) KB2887595 がインストールされていることを確認してください。

UFT One インストールと OpenText UFT Agent(ブラウザのサポート)

次の表では，OpenText UFT Agent 拡張機能をブラウザにインストールする手順について説明します。

ブラウザ	UFT の手順
Google Chrome	Google Chrome バージョン 68 以降でアプリケーションをテストしている場合，UFT One のインストール後に初めて Chrome を開くと，Chrome は OpenText UFT Agent for Google Chrome を自動的にダウンロードしてインストールします。 次の場合，OpenText UFT Agent Chrome 拡張機能を手動でインストールする必要があります。 • インターネットに接続していない。 • Google Chrome の自動更新を有効にしていない。 • Google Chrome バージョン 67 以前を使用している。 • Google Chrome バージョン 95 以前を使用している。 拡張機能を手動でインストールする方法の詳細については，UFT One ヘルプセンターを参照してください。
Mozilla Firefox	UFT One のインストール後に初めて Firefox を開くときに，OpenText UFT Agent for Firefox をインストールするプロンプトに同意します。
一般	最新の OpenText UFT Agent ブラウザ拡張機能を使用するには，この拡張機能の古いバージョンである Functional Testing Agent 拡張機能がインストールされていないことを確認します。両方の拡張機能がインストールされている場合は，新しい拡張機能を有効にする前に古い拡張機能を手動で削除します。

UFT One インストールと 64 ビット・アプリケーション

管理者権限でのインストール	管理者権限を持つユーザが UFT One Add-in for ALM をインストールするか，Run Results Viewer の修復操作を実行した後に，管理者権限のないユーザが同じコンピュータで UFT One を実行すると，UFT One は 64 ビット・アプリケーションをサポートできなくなります。 **回避策**：管理者としてログインし，次のいずれかを実行します。 • UFT One を修復 • **<UFT One インストール・フォルダ>\bin64\Mediator64.exe** を実行する
32 ビットおよび 64 ビット・アプリケーション	コンピュータにアプリケーションのバージョンが 2 種類あり，一方が 32 ビットでもう一方が 64 ビットの場合，常に 32 ビット・バージョンが開かれます。 これは，オペレーティング・システムが Program Files フォルダから Program Files(x86) フォルダへのリダイレクトと，System32 フォルダから SysWow64 フォルダへのリダイレクトを実行する場合に発生します。 **回避策**：64 ビット・バージョンを指定するには，ステップで 64 ビット・バージョンのパスを明示的に指定してください。
.NET / WPF Add-in Extensibility	.NET または WPF Add-in Extensibility を 64 ビットの Windows Forms プロセスで使用する場合，［**Any CPU**］オプションを使用してカスタム・サーバ DLL を構築する必要があります。

UFT One インストールと Java

UFT One がインストールされているマシンで JRE を再インストールまたはアップグレードすると，エラー 1603 が発生して JRE のインストールが完了しない場合があります。

これは，UFT One の Java 環境変数と Java インストーラ間の干渉が原因である可能性があります。

インストールを正常に完了するには，UFT One の Java 環境変数の名前を変更し，JRE のインストールを実行してから，変数名を元に戻します。

UFT One の Java 環境変数の名前を一時的に変更するには：

1. Windows デスクトップで，［**マイコンピュータ**］または［**PC**］を右クリックし，［**プロパティ**］を選択します。
2. ［**詳細設定**］タブを選択します。
3. ［**環境変数**］ボタンをクリックします。
4. ユーザ環境変数リストとシステム環境変数リストの両方で，次の環境変数を探して名前を編集します。
   - _JAVA_OPTIONS
   - Java_Tool_Options
   - IBM_Java_Options
5. JRE をインストールします。
6. インストールが完了したら，環境変数の名前を元の名前に戻します。

英語以外の言語での UFT インストール

英語以外の言語で UFT One をインストールする場合，標準設定では TTF16.ocx ファイルは登録されません。このような場合にエラーを回避するには，インストールを始める前に次の手順を実行します。

1. Windows の［ようこそ画面と新しいユーザーアカウントの設定］を参照します。これは Windows のコントロール・パネルの**地域**または**地域と言語**の設定で確認できます。
2. ［**設定のコピー...**］をクリックし，現在の設定を［**ようこそ画面とシステムアカウント**］にコピーするように選択します。

その他の参照項目：

- 「UFT Oneライセンスに関する既知の問題」(106ページ)

UFT Oneライセンス

UFT Oneを使用するにはライセンスが必要です。このセクションでは，さまざまな種類のUFT Oneライセンス，ライセンス情報の表示場所，およびライセンスのインストール方法について説明します。

このセクションの内容：

- UFT Oneのライセンスの種類 77
- ライセンス情報の表示 78
- AutoPass License Server 78
- シート・ライセンスとコンカレント・ライセンス 79
- ライセンス・エディション 82
- ウィザードを使用したライセンスの管理 86
- コマンド・ラインを使用したライセンスの管理 93
- ライセンス動作の設定 97
- ライセンスに関するよくある質問 101
- UFT Oneライセンスに関する既知の問題 106

UFT Oneのライセンスの種類

UFT Oneをインストールする際に，次のライセンスの種類のいずれかを選択します。

- インストールしたコンピュータのみで有効な永久**シート・ライセンス**。

  注：UFT Oneの試用版インストールには，30日間の体験版シート・ライセンスが含まれています。

- ネットワークベースの**コンカレント・ライセンス**。複数のUFT Oneユーザが使用可能で，ライセンス・サーバ・プールから取得したりライセンス・サーバ・プールに戻したりできます。

  体験版のコンカレント・ライセンスが必要な場合は，UFT Oneの販売担当者またはパートナーまでお問い合わせください。

管理者権限でログインしている限り，ライセンスの種類はいつでも変更できます。たとえば，現在シート・ライセンスを使用している場合，コンカレント・ライセンス・サーバをネットワーク上で利用できる場合は，コンカレント・ライセンス・サーバに接続することを選択できます。

> **注:** レガシー・ライセンスで UFT One を起動することも可能ですが，この場合，使用許諾されているサービスの機能に限定されます。たとえば，QuickTest Professional または Service Test のレガシー・ライセンスを使用して UFT One を開いた場合，GUI テスト または API テスト の機能にアクセスできます。

詳細については，「シート・ライセンスとコンカレント・ライセンス」(79ページ)および「ライセンス・エディション」(82ページ)を参照してください。

ライセンスのインストールと設定の詳細については，以下を参照してください。

- 「ウィザードを使用したライセンスの管理」(86ページ)
- 「コマンド・ラインを使用したライセンスの管理」(93ページ)
- 「ライセンス動作の設定」(97ページ)

ライセンス情報の表示

現在のライセンスの詳細を表示するには，次の手順を実行します。

1. UFT One で，［**ヘルプ**］＞［**OpenText UFT Oneのバージョン情報**］を選択します。
2. ［**ライセンス**］をクリックします。

   少なくとも 1 つのライセンスの有効期限が近づいている場合，UFT One には有効期限に最も近いライセンスの日付が表示されます。

AutoPass License Server

コンカレント・ライセンスでは，AutoPass License Server を使用する必要があります。UFT One 14.50 以降にアップグレードする場合は，AutoPass のバージョンを AutoPass バージョン 10.7 以降にアップグレードする必要があります。

ITOMマーケットプレイスからインストール・ファイルをダウンロードします（ログインが必要）。

> **注意:** 前のバージョンの UFT One を AutoPass バージョン 10.7 で使用するには，SSL を設定する必要があります。詳細については，AutoPass 10.7 SSL 通信サポート・ドキュメントを参照してください（ログインが必要）。

プロキシ設定，ライセンスとユーザの管理などの詳細については，AutoPass License Server のオンライン・ドキュメントを参照してください。

その他の参照項目：

- 「インストール時の既知の問題」(67ページ)
- 「ライセンスに関するよくある質問」(101ページ)
- 「UFT Oneライセンスに関する既知の問題」(106ページ)
- UFT Oneコミュニティ・ディスカッション：ライセンス関連の問題の検索
- ブログ：Take a deep dive into Unified Functional Testing's new license management

シート・ライセンスとコンカレント・ライセンス

このセクションでは，UFT Oneシート・ライセンスとコンカレント・ライセンスについて説明します。必要に応じて最適なタイプのライセンスを選択するのに役立ちます。

このセクションの内容：

- シート・ライセンス 80
- コンカレント・ライセンス 80

シート・ライセンス

シート・ライセンスは，コンピュータごとの特定のロック・コードに基づいたマシン固有のライセンスです。

キーの入力が必要になるのは1回のみです。キーごとに1つのインストールが利用できます。

複数の起動用パーティションを持つコンピュータは，パーティションごとに異なるロッキング・コードを生成することがあります。シート・ライセンス・キーを取得する際は，UFT OneまたはUFT Developerを使用するパーティションのロック・コードを使用する必要があります。

シート・ライセンスと Windows サーバ

Windowsサーバにシート・ライセンスをインストールすると，Windowsサーバに最初にログインしたユーザがシート・ライセンスを消費します。

制限されたシート・ライセンス

期間限定のシート・ライセンスのインストールでは，コンピュータの日付を変更しないでください。日付を変更すると，アクティブなシート・ライセンスがブロックされ，それ以降，そのコンピュータではシート・ライセンスをインストールできなくなります。詳細については，UFT Oneライセンスの提供元にお問い合わせください。

MACアドレスまたはホスト名の変更

シート・ライセンスのインストール後にコンピュータの MACアドレスまたはホスト名を変更した場合，シート・ライセンスの生成とインストールを再度行う必要があります。

コンカレント・ライセンス

コンカレント・ライセンスは，セッションごとに AutoPassライセンス・サーバから取得されます。コンカレント・ライセンスのインストールとアクセス許可には，アクティブなネットワーク接続が必要です。

UFT One または UFT Developer は起動するたびに，使用可能なライセンスを求めて AutoPass ライセンス・サーバに接続し，サーバにより現在使用されているライセンスの数が調節されます。

UFT One または UFT Developer が閉じられると，ライセンスは AutoPass ライセンス・サーバに返されます。さらに，UFT One または UFT Developer が指定された時間マウスまたはキーボードの操作がなくアイドル状態の場合，コンカレント・ライセンスは解放されます。

FT ツールをインターネットにアクセスせずに使用する必要がある場合は，代わりに次のいずれかを使用します。

コミュータ・ライセンス	インターネットを使用しないで UFT One または UFT Developer にアクセスする必要があることが分かっている場合は，事前に**コミュータ・ライセンス**をチェックアウトしてください。 コミュータ・ライセンス・キーは一度入力すると，限られた期間，UFT One または UFT Developer の単一インストールを使用できるようになります。 ライセンス・キーはマシンの識別情報に基づいており，要求を行うコンピュータに固有のものです。
リモート・コミュータ・ライセンス	予期せずインターネットにアクセスできない場合は，アクセスできる別のユーザにコミュータ・ライセンスをチェックアウトしてもらう必要があります。 これは**リモート・コミュータ・ライセンス**と呼ばれ，FT ツールで使用するために送信してもらう必要があります。

コミュータとリモート・コミュータの両方のライセンスは，有効期限日の 23:59 に失効します。コミュータ・ライセンスの有効期限が終了すると，UFT One および UFT Developer はライセンスのタイプを以前使用していたタイプへと自動的に戻します。

> **ヒント：**ネットワーク全体のライセンス使用状況（FT ツールおよびその他の製品）を追跡できます。詳細については，AutoPass License Server のオンライン・ドキュメントを参照してください。

その他の参照項目：

- ブログ：Take a deep dive into Unified Functional Testing's new license management
- AutoPass License Server のオンライン・ドキュメント

ライセンス・エディション

ADM Functional Testing ツールは，さまざまなライセンス・エディションをサポートしています。それぞれのエディションには，機能テスト機能の異なるサブセットがバンドルされています。

このセクションの内容：

- サポートされるライセンス・エディション 82
- UFT 14.00 より前からのライセンスのアップグレード 83
- ライセンスのフォールバック機能 84

サポートされるライセンス・エディション

次の表は，各ライセンス・エディションで利用可能な製品を示しています。

	ライセンス名		
対応している製品：	**UFT Ultimate***	**UFT One**	**UFT Developer**
UFT One	✓	✓	✗
UFT Developer	✓	✓	✓
Sprinter	✓	✓*	✗
BPT	✓*	✓*	✗
Digital Lab（機能テストの場合のみ）	✓	✗	✗

また，UFT One または UFT Developer テストのみを実行する必要がある場合は，**UFT ランタイム・エンジン・**ライセンスを使用します。

UFTランタイム・エンジン・ライセンスでは，テストの作成や編集，または UFT One IDE や UFT Developer IDE のプラグインへのアクセスを行うことはできません。

> **注：**
> - **UFT Ultimate**ライセンスは購入できなくなりました。既存の顧客に対してのみサポートされます。
> - **UFT Ultimate**ライセンスは，コンカレント・ライセンスとしてのみ提供されます。
> - Sprinter は **UFT Ultimate** または **UFT One** のコンカレント・ライセンスでのみ利用できます。
> - BPT と UFT One を使用する場合は，ALM サーバにも BPT のライセンスが必要です。

UFT 14.00 より前からのライセンスのアップグレード

後方互換性	アップグレードを行う場合で，FT，QTP，または UFT のライセンスを現在保有している場合は，新しいライセンスの種類に移行する必要はありません。UFT One は既存のライセンスで引き続き使用できます。 従来の FT または QTP ライセンスをお持ちのお客様は，引き続き既存の機能を使用できます。従来の UFT ライセンスをお持ちのお客様は，UI テストのみに制限されます。そのような場合は，すべての UFT One 機能を有効にするために UFT One ライセンスにアップグレードすることをお勧めします。 UFT および LeanFT ライセンスは，次のように自動的に名前が変更されます。 • **UFT ライセンス**：ライセンス名が **UFT One** ライセンスに自動的に変更されます。 • **LeanFT ライセンス**：ライセンス名が **UFT Developer** ライセンスに自動的に変更されます。

デバイス ID ベースのライセンス	UFT 14.00 以降，UFT One は，ライセンス・サーバの IP アドレスに基づいたコンカレント・ライセンスに加えて，デバイス ID に基づいたコンカレント・ライセンスをサポートしています。 ただし，IP アドレスに基づいたライセンスとデバイス ID ベースのライセンスを同時に使用することはできません。 AutoPass License Server に ID ベースのコンカレント・ライセンスをインストールすると，同じ機能に対する IP アドレスに基づいたライセンスは自動的にアーカイブされます。 アップグレードを行う場合は，使用するライセンスの種類を選択し，必要に応じてライセンスを移行します。 詳細については，AutoPass License Server のオンライン・ドキュメントを参照してください。

ライセンスのフォールバック機能

UFT One または UFT Developer を起動したときに，AutoPass License Server は UFT One または UFT Developer マシンで設定されたライセンス・エディション（**UFT One** または **UFT Developer** など）を使用しようとします。

ツールのマシンに設定されているライセンス・エディションの可用性が懸念される場合は，「ライセンスのフォールバック機能の設定」(98ページ)の説明に従ってこの設定を変更してください。

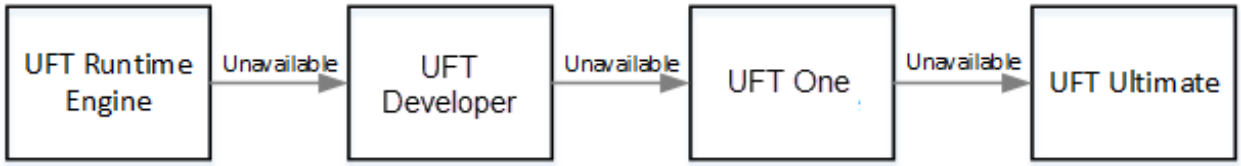
フォールバック機能を有効にした場合，ライセンスは次のように消費されます。

UFT One を起動したとき

- **UFT One** ライセンスをインストールしている場合，ライセンス・サーバはフォールバックとして **UFT One Ultimate** ライセンスを探します。
- **UFT ランタイム・エンジン** または **UFT Developer** ライセンスをインストールしている場合，フォールバックはサポートされません。

UFT Developer を起動したとき

UFT Developer ランタイム・エンジンを起動する場合，ライセンスは，お使いのマシンで設定されたライセンスから始まって，ライセンス・サーバ上で次の順序で消費されます。



注:

- ライセンスのフォールバック機能は，コンカレント・ライセンスを使用する場合にのみ関係します。
- ライセンスのフォールバック機能は，デフォルトでは無効になっています。

サンプル・シナリオ 1：UFT Developer マシンで UFT Developer ライセンスが設定されている場合

使用しているマシンで **UFT Developer** ライセンスが設定されていて，ライセンス・サーバに使用可能な **UFT Developer** ライセンスが存在しない場合，UFT Developer は **UFT One** ライセンスを消費しようとします。

使用可能な **UFT One** ライセンスも存在しない場合，UFT Developer は **UFT Ultimate** ライセンスを消費しようとします。

サンプル・シナリオ 2：UFT Developer マシンで UFT ランタイム・ライセンスが設定されている場合

使用している UFT Developer マシンで **UFT ランタイム・エンジン・** ライセンスが設定されていて，使用可能な **UFT ランタイム・エンジン・** ライセンスが存在しない場合，UFT Developer は **UFT Developer** ライセンスを消費しようとします。

使用可能な **UFT Developer** ライセンスも存在しない場合，UFT Developer は **UFT One** ライセンスを消費しようとします。

その他の参照項目：

- 「UFT Oneライセンス」(77ページ)
- 「ライセンス動作の設定」(97ページ)

- 「ライセンスに関するよくある質問」(101ページ)
- ブログ：Take a deep dive into Unified Functional Testing's new license management

ウィザードを使用したライセンスの管理

Functional Testingライセンス・ウィザードでは，UFT OneまたはUFT Developerのライセンスを管理できます。

ライセンスをインストールするには管理者権限が必要です。

このセクションの内容：

シート・ライセンス・モードの設定

コンピュータごとに特定のロック・コードに基づいて，マシン固有のライセンスを持っている場合は，シート・ライセンス・モードを設定します。詳細については，「シート・ライセンスとコンカレント・ライセンス」(79ページ)を参照してください。

1. ［**スタート**］メニューまたは<**UFT One / UFT Developer インストール・フォルダ>\bin\HP.UFT.LicenseInstallationWizard.exe** からウィザードにアクセスします。
2. ［ライセンスウィザード］の開始画面で［**シートライセンス**］を選択します。
3. ［シートライセンスのインストール］画面で，次のいずれかを実行します。
   - ［**ライセンスキーファイルのロード**］をクリックし，ライセンス・キーの **.dat** ファイルを選択します。

     編集フィールドにライセンス・キーを貼り付けます。
   - ライセンス・キーをまだ取得していない場合は，［**ライセンスキーファイルの入手方法**］セクションを展開し，その手順に従います。

4. ライセンス・キーが有効であることを検証し，［**インストール**］をクリックします。
5. 完了したら，UFT OneまたはUFT Developerを再起動して新しいライセンスを適用します。

コンカレント・ライセンス・モードの設定（ウィザード）

UFT OneがAutoPass License Serverからのコンカレント・ライセンスを消費するように，コンカレント・ライセンス・モードを設定します。

詳細については，「シート・ライセンスとコンカレント・ライセンス」(79ページ)を参照してください。

前提条件

- AutoPass License ServerにUFT Oneライセンスをインストールしておく必要があります。

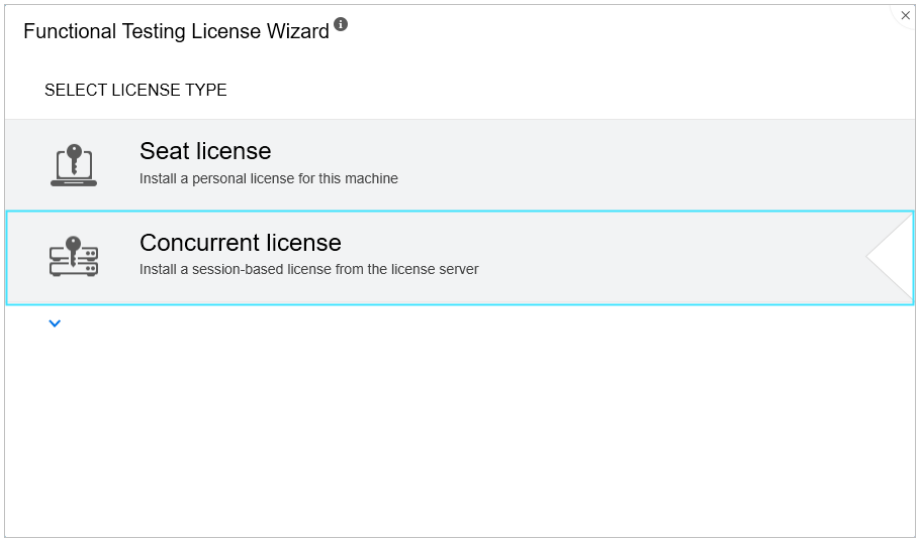
  詳細については，AutoPass License Serverのオンライン・ドキュメントを参照してください。

  > **注:** UFT OneとライセンスーサーバをインストールするUFT Oneをインストールする必要がある場合は，Full UFT One DVD ReleaseまたはCore UFT One DVD Bundleから必要があります。

- ネットワークに接続されていることと，AutoPass License Serverにアクセスできることを確認します。

コンカレント・ライセンス・モードを設定する

1. ［**スタート**］メニューまたは<**UFT One / UFT Developer インストール・フォルダ>\bin\HP.UFT.LicenseInstallationWizard.exe**からウィザードにアクセスします。
2. ［ライセンスウィザード］の開始画面で［**コンカレントライセンス**］を選択します。

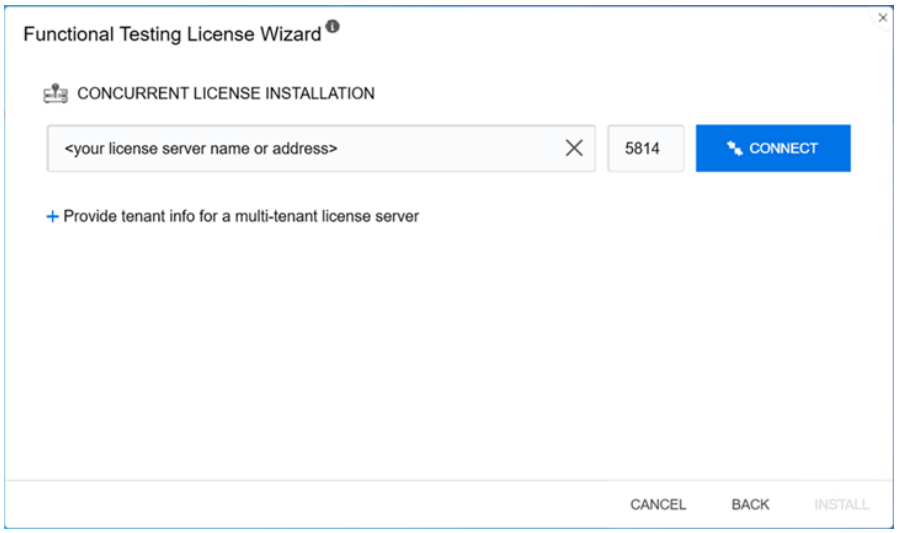


3. ［コンカレント ライセンスのインストール］画面で：

   ライセンス・サーバのアドレスとポート番号を入力します。

   標準ポート番号は **5814** です。

> **注:** アドレスの形式は，License Server の［Configuration］表示枠の［**Main**］タブで使用されているものと同じである必要があります。詳細については，AutoPass License Server のオンライン・ドキュメントを参照してください。



4. マルチテナント・ライセンス・サーバのアドレスを入力する場合は，テナント情報を入力します。

［**マルチテナントライセンスサーバのテナント情報を入力**］をクリックし，テナント IDと認証トークンを入力します。

AutoPass License Serverのテナントに認証トークンを割り当てる方法については，AutoPass License Serverのオンライン・ドキュメントを参照してください。

5. ［**接続**］をクリックし，ライセンス・サーバに接続します。
6. 製品ライセンスのドロップダウン・リストで適切なライセンスを選択し，［**インストール**］をクリックします。
7. ライセンス消費を定義している間にUFT OneまたはUFT Developerが実行されていた場合は，再起動して新しいライセンスを適用します。

コミュータ・ライセンスのチェックアウトと消費

コミュータ・ライセンスのチェックアウトと消費

コミュータ・ライセンスをチェックアウトするには，ライセンス・サーバに使用可能なコンカレント・ライセンスが存在しなければなりません。

1. **前提条件**：ネットワークに接続されていることと，AutoPass License Serverにアクセスできることを確認します。

   ライセンス・サーバにアクセスできない場合は，「リモート・コミュータ・ライセンスのチェックアウトと消費」(91ページ)を参照してください。
2. ［**スタート**］メニューまたは**<UFT One / UFT Developer インストール・フォルダ>\bin\HP.UFT.LicenseInstallationWizard.exe**からウィザードにアクセスします。
3. ［ライセンスウィザード］の開始画面で［**追加オプション**］>［**コミュータライセンス**］を選択します。
4. コミュータ・ライセンスのインストール画面が開いたら，次の形式でライセンス・サーバのアドレスを入力します。

   <ライセンス・サーバ・アドレス>:<ポート>

   標準ポート番号は**5814**です。

> **注:** アドレスの形式は，License Server の［Configuration］表示枠の［**Main**］タブで使用されているものと同じである必要があります。
>
> 詳細については，AutoPass License Server のオンライン・ドキュメントを参照してください。

5. ［**接続**］をクリックし，ライセンス・サーバに接続します。
6. 利用可能なライセンスが一覧表示されたら，ライセンス・サーバのアドレスフィールドの下にある［**利用可能**］が選択されていることを確認します。
7. 利用可能なライセンスのリストから，必要なライセンスを選択します。
8. ［**ライセンスのチェックアウト期間 (日)**］フィールドに，コミュータ・ライセンスが必要になる日数を入力します。

   最大 365 日間
9. ［**チェックアウト**］をクリックし，［**次へ**］をクリックしてライセンス消費を定義します。
10. ライセンス消費を定義している間に UFT One または UFT Developer が実行されていた場合は，再起動して新しいライセンスを適用します。

コミュータ・ライセンスの返却

ライセンスの作業が完了したら，ライセンス・サーバに戻してください。

このプロセスは，チェックアウトされたすべてのライセンスをチェックインします。これらのライセンスのうちいくつかがまだ必要な場合は，もう一度チェックアウトしてください。

1. **前提条件**：ネットワークに接続されていることと，ライセンス・サーバにアクセスできることを確認します。

   ライセンス・サーバにアクセスできない場合は，「リモート・コミュータ・ライセンスのチェックアウトと消費」(91ページ)を参照してください。
2. ［**スタート**］メニューまたは<**UFT One / UFT Developer インストール・フォルダ**>**\bin\HP.UFT.LicenseInstallationWizard.exe** からウィザードにアクセスします。

3. ［ライセンス ウィザード］の開始画面で［**追加オプション**］＞［**コミュータ ライセンス**］を選択します。
4. コミュータ・ライセンスのインストールの画面が開き，ライセンス・サーバのアドレスが表示されます。すでに接続された状態になっています。

   必要に応じて，次の形式でライセンス・サーバのアドレスを入力します。

   <ライセンス・サーバ・アドレス>:<ポート>

   標準ポート番号は **5814** です。

   > **注:** アドレスの形式は，License Server の［Configuration］表示枠の［**Main**］タブで使用されているものと同じである必要があります。
   >
   > 詳細については，AutoPass License Server のオンライン・ドキュメントを参照してください。

5. ライセンスを一覧表示する領域で，［**チェックアウト済み**］が選択されていることを確認します。

   例：

6. ［**すべてのライセンスのチェックイン**］をクリックし，［**次へ**］をクリックします。チェックアウトされたライセンスのリストが消去されます。

リモート・コミュータ・ライセンスのチェックアウトと消費

リモート・コミュータ・ライセンスのチェックアウトと消費

リモート・コミュータ・ライセンスをチェックアウトするには，ライセンス・サーバに使用可能なコンカレント・ライセンスが存在しなければなりません。

1. ［**スタート**］メニューまたは<**UFT One / UFT Developer インストール・フォルダ>\bin\HP.UFT.LicenseInstallationWizard.exe** からウィザードにアクセスします。
2. ［ライセンス ウィザード］の開始画面で［**追加オプション**］＞［**リモートコミュータ ライセンス**］を選択します。

3. ［リモート コミュータ ライセンスのインストール］画面で，［**要求ファイルの生成**］が選択されていることを確認します。
4. 利用可能なライセンスのリストから，必要なライセンスを選択します。
5. ［**ライセンスのチェックアウト 期間 (日)**］フィールドに，コミュータ・ライセンスが必要になる日数を入力します。

   最大 365 日間
6. ［**要求ファイルの生成**］をクリックします。
7. このボタンの下に表示されているリンクをクリックして，要求ファイルを含むフォルダを開きます。

   生成された **.lcor** 要求ファイルをライセンス・サーバの管理者，またはライセンス・サーバへのアクセス許可を持つユーザに送信します。

   別のユーザが，ライセンス・サーバにアクセスして，ライセンス・キー・ファイルをチェックアウトし，ライセンス・キー・ファイルを送信する必要があります。
8. ライセンス・キー・ファイルを受け取ったら，ローカルに保存します。

   ［**ライセンスのインストール**］をクリックし，［**ファイルの選択**］をクリックして受け取ったテキスト・ファイルを参照します。
9. ［**インストール**］をクリックしてライセンスをインストールします。
10. ライセンス消費を定義している間に UFT One または UFT Developer が実行されていた場合は，再起動して新しいライセンスを適用します。

リモート・コミュータ・ライセンスの返却

ライセンス・サーバ管理者がライセンスをチェックアウトした後に，この手順を実行します。

1. ［**スタート**］メニューまたは<**UFT One / UFT Developer インストール・フォルダ >\bin\HP.UFT.LicenseInstallationWizard.exe** からウィザードにアクセスします。
2. ［ライセンス ウィザード］の開始画面で［**追加オプション**］＞［**リモート コミュータ ライセンス**］を選択します。

3. ［リモート コミュータ ライセンスのインストール］画面で，［**要求ファイルの生成**］が選択されていることを確認します。
4. 生成画面で［**チェックイン要求の生成と保存**］をクリックし，**.lcir** チェックイン要求ファイルを保存します。
5. ［**次へ**］をクリックしてライセンスをアンインストールします。

ライセンス・ウィザードの画面で，リモート・コミュータ・ライセンスのアンインストールが完了したことが報告されます。UFT One または UFT Developer のライセンスの種類が以前のものに戻り，そのライセンスがアクティブになります。

その他の参照項目：

- 「シート・ライセンスとコンカレント・ライセンス」(79ページ)
- ブログ：Take a deep dive into Unified Functional Testing's new license management

コマンド・ラインを使用したライセンスの管理

シート・ライセンスまたはコンカレント・ライセンスの消費およびライセンスのステータスの確認をコマンド・ラインから直接行います。ライセンスをインストールするには管理者権限が必要です。

このセクションの内容：

- コマンド・ラインからのライセンス・インストーラの実行 93
- コマンド・ラインを使用したシート・ライセンスの定義 94
- コマンド・ラインを使用したコンカレント・ライセンスの消費 95

コマンド・ラインからのライセンス・インストーラの実行

次のように，ライセンス・インストーラ **LicenseInstall.exe** を実行します。

```
"<UFT One または UFT Developer インストール・ディレクトリ
>\bin\HP.UFT.LicenseInstall.exe"
```

関連するコマンドとパラメータのセットを，以下の説明に従って追加します。

- 「コマンド・ラインを使用したシート・ライセンスの定義」(94ページ)
- 「コマンド・ラインを使用したコンカレント・ライセンスの消費」(95ページ)

コマンド・ラインを使用したシート・ライセンスの定義

ライセンス・インストーラを実行し，次を追加して，コマンド・ラインでシート・ライセンスを定義します。

```
seat "<ライセンス・キー文字列>"
```

例：

```
"C:\Program Files (x86)\OpenText\UFT
One\bin\HP.UFT.LicenseInstall.exe" seat "<key> \" OpenText UFT One"
```

注：

- ライセンス・キー文字列に二重引用符(**"**) が含まれている場合は，引用符の前にバックスラッシュ(****) を追加してください。
- ライセンス・キー・ファイルがローカルに保存されている場合は，ライセンス・インストーラを実行し，次のコードを追加し，ライセンス・キー・ファイルのパスを引用符で囲みます。

  ```
  seat "<ライセンス・キー・ファイルのパス>"
  ```

  例：

  ```
  "C:\Program Files (x86)\OpenText\UFT
  One\bin\HP.UFT.LicenseInstall.exe" seat "Downloads\UFT-
  licfile.dat"
  ```

詳細については，「シート・ライセンス」(80ページ)を参照してください。

コマンド・ラインを使用したコンカレント・ライセンスの消費

これらの手順では，AutoPassライセンス・サーバにインストールされているコンカレント・ライセンスを消費するようにUFT Oneを構成します。

AutoPass License Serverでの利用可能なライセンスの確認

次のコマンドを追加してライセンス・インストーラを実行します。

```
licenses <server name/address>:<port> [/tenantid:"xx"
/tenanttoken:"xx"]
```

次に例を示します。

```
"C:\Program Files (x86)\OpenText\UFT
One\bin\HP.UFT.LicenseInstall.exe" licenses 11.11.111.111:5814
/tenantid:"tenant1" /tenanttoken:"6wxTn89A6BSr04c+nPYstA=="
```

> **注: tenantid** および **tenanttoken** が必要になるのは，マルチテナントのLicense Serverで利用可能なライセンスを確認する場合のみです。

利用可能なライセンスが一意のIDとバージョンで表示されます。

コンカレント・ライセンスの消費

1. ライセンス・インストーラを実行して，上記のように，AutoPass License Serverで利用可能なライセンスを確認します。

   利用可能なライセンスが一意のIDとバージョンで表示されます。

2. ライセンス・インストーラを再度実行します。今回は，次のコマンドとパラメータを追加します。

   ```
   concurrent <license ID> <license version> <server
   address>:<port> [/tenantid:"xx" /tenanttoken:"xx"] [/force]
   ```

   次に例を示します。

```
"C:\Program Files (x86)\OpenText\UFT
One\bin\HP.UFT.LicenseInstall.exe" concurrent 10594 1
11.11.111.111:5814 /tenantid:"tenant1"
/tenanttoken:"6wxTn89A6BSr04c+nPYstA=="
```

address	**アドレス**の形式は，AutoPass License Server の［Configuration］表示枠の［**Main**］タブで使用されているものと同じである必要があります。 詳細については，AutoPass License Server のオンライン・ドキュメントを参照してください。
ポート	任意。 サーバの標準設定のポートは **5814** です。
/tenantid	AutoPass License Server テナントの ID。 これが必要になるのは，License Server でマルチテナンシーが有効になっている場合のみです。
/tenanttoken	テナントに割り当てられたトークン。 これが必要になるのは，License Server でマルチテナンシーが有効になっている場合のみです。
/force	任意。 **/force** を指定すると，現在のインストールが失敗した場合でも，ライセンス・インストール情報が保存されます。これに続くセッションで，UFT One または UFT Developer はリストアップされたライセンス・サーバに，該当するライセンスがあるかどうかをチェックします。

サーバ接続プロトコルの変更

次を追加してライセンス・インストーラを実行します。

```
config protocol.primary <protocol>
```

<プロトコル> は必要に応じて **http** または **https** を指定します。

その他の参照項目：

- 「シート・ライセンスとコンカレント・ライセンス」(79ページ)
- ブログ：Take a deep dive into Unified Functional Testing's new license management

ライセンス動作の設定

このセクションでは，UFT Oneのライセンス動作の設定方法について説明します。

UFT Developerを Linuxまたは Macにインストールする場合，または UFT Developerスタンドアロンをインストールする場合は，代わりに UFT Developerヘルプセンターを参照してください。

> **注:** 後方互換性を考慮して，一部のフォルダ・パスには以前の会社のブランドが意図的に使用されています。

このセクションの内容：

- 一般的なライセンス設定 97
- ライセンスのフォールバック機能の設定 98
- ライセンス・タイムアウトの設定 99

一般的なライセンス設定

一般的なライセンス動作は，UFT OneまたはUFT Developerマシンにある AutoPassライセンス設定ファイルで管理されます。このファイルには，サポートされているオプションと値に関する詳細が含まれています。

UFT One 24.2 以降	UFT One 23.4
ファイルは，次の場所に格納されています。**C:\ProgramData\OpenText\UFT\License\autopass.txt**	ファイルは，次の場所に格納されています。**C:\ProgramData\Micro Focus\UFT\License\autopass.txt**

> **注意:** このファイルを設定する際には注意が必要です。
>
> 間違った設定を行うと，UFT OneまたはUFT Developerが予期しない動作をしたり，UFT OneまたはUFT Developerが起動しなくなったりすることがあります。

追加の設定は，次のとおりです。

- 「ライセンスのフォールバック機能の設定」(98ページ)：コンカレント・ライセンス・サーバに複数のライセンス・エディションがインストールされていて，使用可能なライセンスを製品が常に見つけられるようにする場合は，この手順を実行します。
- 「ライセンス・タイムアウトの設定」(99ページ)：ライセンスが解放されるまでのタイムアウト期間を定義します。

ライセンスのフォールバック機能の設定

システムでUFT OneおよびUFT Developerのライセンス・フォールバック機能を使用するかどうかを，次のように定義します。

1. AutoPass License Serverマシンで，**C:\ProgramData\autopass\apls\licenseserver\data\conf\UFT.xml**ファイルを参照します。

   > **注:** このファイルは，AutoPassバージョン9.3以降で使用できます。

2. 必要に応じて，キーと値を編集して追加し，次の値を**true**に設定します。

製品	ライセンスの種類	キー
UFT One	任意	**license.fallback.uft.rte**
ランタイム・エンジン	任意	**license.fallback.rte.rte**
UFT Developer	UFT Developer	**license.fallback.leanft.leanft**

製品	ライセンスの種類	キー
UFT Developer	ランタイム・エンジン	**license.fallback.leanft.rte**

キー・エントリは必ず <properties> 要素内の <comment> 要素の後に追加してください。

次の形式でキーと値を編集して追加します。

```
<entry key="{Key}">{Value}</entry>
```

Example: UFT One を使用する場合で，**任意**のライセンスの種類を設定している場合にフォールバック機能を有効にするには，次のように関連するキーの値を **true** に設定します。

```
<entry key="license.fallback.uft.rte">true</entry>
```

ランタイム・エンジンライセンスの検出

フォールバック機能を有効にしていて，使用可能な **ランタイム・エンジン** のライセンスが検出された場合，テストの実行のみを行うことができます。作成や編集の機能は利用できません。

UFT One IDE や UFT Developer IDE のプラグインに常にアクセスできるようにするには，次のいずれかを実行します。

- キーの値を **false** に設定して，フォールバック機能を無効にする（これが標準設定です）。
- ライセンス・サーバの管理者に問い合わせて，UFT Oneランタイム・エンジンのライセンスがブロックされているか使用中であることを確認する。

詳細については，「ライセンスのフォールバック機能」(84ページ)を参照してください。

ライセンス・タイムアウトの設定

キーボード入力やマウス入力がない場合に，UFT OneまたはUFT Developerが現在使用しているコンカレント・ライセンスを解放するまでの時間（分）を定

義します。

UFT One または UFT Developer のタイムアウトの設定

1. UFT One または UFT Developer マシンで，**LicenseSettings.xml** ファイルを開いて編集します。

UFT One 24.2 以降	**UFT One 23.4**
ファイルは **C:\ProgramData\OpenText\UFT\License** フォルダにあります。	ファイルは **C:\ProgramData\Micro Focus\UFT\License** フォルダにあります。

2. 次のパラメータを，タイムアウトに定義する分数で更新します。

LicenseAutoReleaseInterval	ライセンスがタイムアウトしそうなことをユーザに警告する確認メッセージが表示されるまでの時間（分数）。
ConfirmLicenseReleaseTimeout	確認メッセージが閉じられ，ライセンスが解放されるまでの時間（分）。

AutoPass コンカレント・ライセンス・サーバのタイムアウトの設定

AutoPass License Server マシンで，**UFT.xml** ファイル（**C:\ProgramData\autopass\apls\licenseserver\data\conf\UFT.xml**）を参照します。

編集用にファイルを開き，次のコード行を追加します。

```
<entry key="autorelease.interval">#</entry>
```

ここで，**<#>** は操作のない時間（分）です。

> **例:** 次の構文を指定すると，操作のない状態が 10 分間続いたときに，ライセンスが解放されます。
>
> ```
> <entry key="autorelease.interval">10</entry>
> ```

その他の参照項目：

- 「ライセンスに関するよくある質問」(101ページ)
- 「UFT Oneライセンスに関する既知の問題」(106ページ)
- 「UFT Oneライセンス」(77ページ)
- ブログ：Take a deep dive into Unified Functional Testing's new license management

ライセンスに関するよくある質問

このセクションでは，Functional Testingライセンスの使用とインストールに関して，よくある質問とその回答をまとめます。

> **注:** 後方互換性を考慮して，一部のフォルダ・パスには以前の会社のブランドが意図的に使用されています。

このセクションの内容：

- UFT One ヘルプセンターのライセンス・スコープ 102
- 古いライセンス(UFT One 12.50 より前のもの)を新しいライセンス・サーバで使用できますか。 102
- どのライセンスをインストールすればよいのですか。 102
- AutoPass License Server をインストールするにはどうすればよいですか。 103
- コンカレント・ライセンスを使用する場合，ライセンス・サーバに接続するには，どうすればよいでしょうか。 103
- エンタープライズ・ネットワークに UFT One をデプロイする場合，どのような方法でライセンスをインストールすればよいでしょうか。 104
- ライセンス・サーバでコンカレント・ライセンスを管理する方法を教えてください。 104
- ライセンスの動作を自分で設定することはできますか。 104
- プロキシ経由で AutoPass License Server を使用できますか。 105
- クリーンアップ・ライセンスとは何ですか。 105
- 体験版ライセンスの有効期限が短いのですが，どうすればよいでしょうか。 105

UFT One ヘルプセンターのライセンス・スコープ

このガイドでは，UFT One および UFT Developer から AutoPass License Server のライセンスにアクセスする方法について説明します。

プロキシ設定，ライセンスのインストールと管理，およびユーザ管理などの AutoPass License Server の各機能の詳細については，AutoPass License Server のオンライン・ドキュメントを参照してください。

古いライセンス（UFT One 12.50 より前のもの）を新しいライセンス・サーバで使用できますか。

使用できません。UFT One 12.50 でライセンスのメカニズムが変更され，コンカレント・ライセンス・サーバが AutoPass License Server に変更されています。

UFT One の旧バージョンでは，Sentinel コンカレント・ライセンス・サーバを使用します。

> **注:** AutoPass License Server とそのドキュメントは，UFT One セットアップ・プログラムで提供されます。

UFT One 12.50 以降のバージョンでライセンスを使用するか，または AutoPass License Server にライセンスをインストールするには，ライセンスをアップグレードする必要があります。

どのライセンスをインストールすればよいのですか。

次の表を参考にして，インストールするライセンスの種類を判断してください。ライセンスの種類の詳細については，「UFT One ライセンス」(77ページ)を参照してください。

シナリオ	インストールするライセンスの種類
固有のライセンス(ライセンスを一意に識別できるライセンス・キーを使用)が割り当てられていますか。	シート
必要に応じてライセンスを使用するグループに所属していますか。	コンカレント ライセンスがインストールされているライセンス・サーバの IP アドレスが必要です。
ライセンスのチェックアウトに使用する IP アドレスが割り当てられていますか。	コンカレント
出張を予定しており，ライセンス・サーバにアクセスできない状態になりますか。	コンカレント・コミュータ
現在出張中であり，ライセンス・サーバにアクセスしてライセンスを取得できない状態ですか。	リモート・コミュータ

AutoPass License Server をインストールするにはどうすればよいですか。

ITOM マーケットプレイスから AutoPass License Server をダウンロードしてください(ログインが必要です)。

詳細については，AutoPass License Server のオンライン・ドキュメントを参照してください。

コンカレント・ライセンスを使用する場合，ライセンス・サーバに接続するには，どうすればよいでしょうか。

Functional Testing ライセンス・ウィザードを実行し，ライセンス・サーバの IP アドレスを入力します。これにより，ライセンス・サーバへの接続がチェックされ，インストール可能なライセンスが一覧表示されます。

コンカレント・ライセンスをインストールすると，UFT OneまたはUFT DeveloperはUFT OneまたはUFT Developerランタイム・エンジンが起動するたびに，指定されたライセンス・サーバのアドレスを確認して，要求されたライセンスを取得します。

詳細については，「ウィザードを使用したライセンスの管理」(86ページ)を参照してください。

エンタープライズ・ネットワークにUFT Oneをデプロイする場合，どのような方法でライセンスをインストールすればよいでしょうか。

UFT Oneのコマンド・ライン・ツールを使用すれば，ライセンス・ウィザードを使用しなくてもUFT Oneライセンスをインストールできます。

ライセンスのインストールに使用するコマンドの詳細については，「コマンド・ラインを使用したライセンスの管理」(93ページ)を参照してください。

コマンド・ラインでは，シート・ライセンスとコンカレント・ライセンスをインストールできます。

ライセンス・サーバでコンカレント・ライセンスを管理する方法を教えてください。

AutoPass License Serverには完全なWebベースのインタフェースが付属し，すべてのライセンス(コンカレントとコミュータの両方)のインストール，管理，および使用状況の追跡を実行できます。

詳細については，AutoPass License Serverのオンライン・ドキュメントを参照してください。

ライセンスの動作を自分で設定することはできますか。

できます。詳細については，「ライセンス動作の設定」(97ページ)を参照してください。

プロキシ経由で AutoPass License Server を使用できますか。

できます。UFT One または UFT Developer マシンにある **autopass.txt** ファイルでプロキシを設定します。

UFT One 24.2 以降	UFT One 23.4
ファイルは **C:\ProgramData\OpenText\UFT\License** フォルダにあります。	ファイルは **C:\ProgramData\Micro Focus\UFT\License** フォルダにあります。

プロキシ設定の詳細については，このファイル内のコメントを参照してください。関連する行のコメントを解除し，それらの値を定義してください。

> **注:** UFT Developer の Linux/Mac インストールの場合は，UFT Developer ヘルプセンターを参照してください。

クリーンアップ・ライセンスとは何ですか。

ライセンス・サーバのインストール後にコンピュータの時計が変更された場合，ライセンス・サーバおよび UFT One または UFT Developer からライセンス・サーバへの接続はいずれも正常に機能しなくなります。

このような場合には，ライセンス・サーバでクリーンアップ・ライセンスを使用する必要があります。これにより，ライセンス機能がすべてリセットされます。

クリーンアップ・ライセンスの詳細については，UFT One ライセンスの提供元にお問い合わせください。

体験版ライセンスの有効期限が短いのですが，どうすればよいでしょうか。

30 日の試用版ライセンスの期間について問題がある場合は，以下を確認します。

- UFT OneまたはUFT Developerインストール・フォルダとそのすべてのサブフォルダへのすべてのアクセス許可があることを確認します。
- システム時刻を変更していないことを確認します。システム時刻を変更した場合は，ライセンス・メカニズムにより日付を戻した日数に応じて試用期間が短くなることがあります。

その他の参照項目：

- ブログ：Take a deep dive into Unified Functional Testing's new license management

UFT Oneライセンスに関する既知の問題

関連：GUIテスト および APIテスト

Functional Testingライセンスの使用時には，次の既知の問題があります。

UFT OneおよびUFT Developerの同時インストール	UFT Oneセットアップ・プログラムから UFT Developerをインストールし，UFT Oneのシート・ライセンスを使用している場合，UFT Developerは同じライセンスを使用します。 このような場合，UFT OneとUFT Developerの両方を同時に実行することはできません。
コンピュータの日付の変更	期間限定のシート・ライセンスのインストールでは，コンピュータの日付を変更しないでください。 日付を変更すると，アクティブなシート・ライセンスがブロックされ，それ以降，そのコンピュータではシート・ライセンスをインストールできなくなります。 この問題に関する質問は，UFT Oneライセンスの提供元にお問い合わせください。
NAT	License Serverは，NAT(Network Address Translation)の使用をサポートしていません。
体験版ライセンス	体験版ライセンスはコンカレント・ライセンスには含まれていません。コンカレント・ライセンスには，AutoPass License Serverへのアクティブな接続と，ライセンス・キーのインストールが必要です。

種類の変更	ライセンスのタイプをシート・ライセンスとコンカレント・ライセンス間で変更するには，管理者権限が必要です。

問題の解決方法がここで見つからなかった場合は，UFT Oneコミュニティで UFT Oneライセンスの問題を検索してください。

その他の参照項目：

- 「UFT Oneライセンス」(77ページ)
- 「ライセンス・エディション」(82ページ)
- 「ウィザードを使用したライセンスの管理」(86ページ)
- 「コマンド・ラインを使用したライセンスの管理」(93ページ)
- 「ライセンスに関するよくある質問」(101ページ)
- ブログ：Take a deep dive into Unified Functional Testing’s new license management

ALM に接続する前に

このコンピュータの ALM からリモートで UFT One テストを実行する場合，ALM に接続する前にユーザ・アカウント制御（UAC）設定を変更する必要があります。これらの変更は，後で元に戻すことができます。

> **注:** このセクションで説明するセキュリティ設定の変更は，システム管理者が行うことをお勧めします。
>
> 前述のオペレーティング・システムにおけるユーザ・アカウント制御（UAC）の変更に関しては，Microsoft サポートへお問い合わせください。

このセクションの内容：

- Microsoft Windows 10 および 11，Windows Server 2016 および 2019 108
- Microsoft Windows Server 2012 109
- UAC を再度有効にする（必要な場合） 109

Microsoft Windows 10 および 11，Windows Server 2016 および 2019

Windows 10，Windows Server 2016，Windows Server 2019 マシンの UAC 設定を次のように変更します。

1. レジストリ・エディタを開きます（**regedit** コマンドを実行）。
2. 次のキーに移動します。**HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System**
3. **EnableLUA** DWORD 値を 0 に変更します。
4. 変更内容を有効にするには，コンピュータを再起動します。

Microsoft Windows Server 2012

Windows Server 2012マシンのUAC設定を次のように変更します。

1. 管理者としてログインします。
2. ［コントロール パネル］から，［**ユーザー アカウント**］＞［**ユーザー アカウントとファミリー セーフティ**］＞［**ユーザー アカウント 制御設定の変更**］を選択します。
3. ［ユーザー アカウント 制御の設定］ウィンドウで，スライダを動かして［**通知しない**］にします。
4. ［コントロール パネル］で，［**システムとセキュリティ**］＞［**管理ツール**］＞［**ローカル セキュリティ ポリシー**］を選択します。
5. ［ローカル セキュリティ ポリシー］ウィンドウの左側の表示枠で，［**ローカル ポリシー**］を選択します。
6. ［ローカル ポリシー］ツリーで，［**セキュリティ オプション**］を選択します。
7. 右の表示枠で，［**ユーザー アカウント 制御: 管理者承認モード ですべての管理者を実行する**］オプションを選択します。
8. メニュー・バーから，［**アクション**］＞［**プロパティ**］を選択します。
9. 開いたダイアログ・ボックスで，［**無効**］を選択します。
10. 変更内容を有効にするには，コンピュータを再起動します。

UACを再度有効にする(必要な場合)

ALMに接続した後，［ユーザ アカウント 制御の設定］ウィンドウに戻り，再度UACを有効にします。スライダを前の位置に戻して，UACオプションを再度オンにします。

Windows 10 では，レジストリ・エディタを開き，**HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System\EnableLUA** の値を 1 に戻します。

変更内容を有効にするには，コンピュータを再起動します。

その他の参照項目：

- Application Lifecycle Management
- ALM ヘルプセンター